岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第444集

# 島田（しまだ）Ⅱ遺跡発掘調査報告書

「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉体地区」関連遺跡発掘調査

水沢地方振興局農政部農村整備室
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

# 島田（しまだ）Ⅱ遺跡発掘調査報告書

「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉休地区」関連遺跡発掘調査

# 序

本県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成15年現在で1万カ所以上が遺跡として確認され、登録されております。これらの先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を保有する本県の大部分は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実もまた重要な一施策であります。今回のほ場整備事業による高生産農業政策を確立していくことは、農村環境の向上を図るうえで必要な施策と言えます。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発の調和も今日的課題であり、当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、「ほ場整備事業姉体地区」に関連して、平成14年度に実施した島田Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。今回の調査では平安時代に所属する竪穴住居や溝などの遺構が多数得られ、当該期の胆沢城を中心とした集落を検討していくうえで貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。 最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました水沢地方振興局水沢農村整備事務所・水沢市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成16年1月

財団法人　岩手県文化振興事業団

理事長　合　田　　武

# 例　言

1．本報告書は、岩手県水沢市真城字島田54ほかに所在する島田Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は、ほ場整備事業に伴い行われたものである。調査は岩手県教育委員会と水沢地方振興局農政部農村整備室との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．岩手県遺跡台帳の遺跡番号はＮＥ37－0079、遺跡略号はＳＤ－02である。

4．発掘調査面積は596㎡である。

5．発掘調査期間及び調査担当者は以下のとおりである。
　平成13年７月８日～８月28日　文化財調査員　村木　敬・文化財調査員　青山　紀和

6．室内整理及び整理担当者は以下のとおりである。
　平成14年12月２日～３月31日　文化財調査員　村木　敬

7．野外での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は写真技師中田実が担当した。

8．本報告書の執筆・編集・構成は、村木　敬が担当した。なお第Ⅰ章調査に至る経緯は、水沢地方振興局農政部農村整備室にお願いしている。

9．野外調査にあたり水沢地方振興局農政部農村整備室、水沢市教育委員会の御協力を頂いた。

10．委託業務は機関に依頼した。
　基準点測量業務委託　有限会社　協栄測量

11．発掘調査、本報告書の作成にあたっては下記の方々にご指導いただいた。（順不同、敬称略）
　佐藤良和（水沢市埋蔵文化財センター）・森　欽（釜石市教育委員会）・中川真人（城山町教育委員会）

12．調査成果はこれまでに現地公開資料や岩手県埋蔵文化財報告書第423集調査略報に発表してきたが、本書の内容がこれに優先するものである。

13．土層の色調観察は、「新版標準土色調」（農林水産省資産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色表監修1989）を用いた。

14．本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県埋蔵文化財センターが保管している。

# 目次

序
例言

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1

第Ⅱ章　位置と環境
1．位置・立地 …… 2
2．地形・地質 …… 2
3．基本層序 …… 2
4．周辺の遺跡 …… 6

第Ⅲ章　調査概要と整理方法
1．野外調査の方法 …… 10
(1) グリッド設定　(2) 遺構名称　(3) 粗掘り・遺構検出・精査
(4) 実測　(5) 写真　(6) 広報活動
2．室内整理の方法 …… 11
(1) 作業手順　(2) 遺構　(3) 遺物　(4) 凡例

第Ⅳ章　検出された遺構・遺物
1．概要 …… 14
2．検出された遺構と遺物 …… 14
(1) 竪穴住居　(2) 掘立柱建物　(3) 溝　(4) 土坑　(5) 柱穴
3．出土遺物 …… 54

第Ⅴ章　まとめ …… 55

# 挿図目次

第1図　遺跡位置図 …… 3
第2図　遺跡周辺図 …… 4
第3図　地形分類図 …… 5
第4図　周辺遺跡分布図 …… 7
第5図　グリッド配置図 …… 10
第6図　凡例 …… 12
第7図　遺構配置図 …… 13
第8図　1号竪穴住居・出土遺物(1) …… 15
第9図　1号竪穴住居出土遺物(2) …… 16
第10図　2・3号竪穴住居 …… 17
第11図　3号竪穴住居出土遺物 …… 18
第12図　4号竪穴住居・出土遺物 …… 19

第13図　5号竪穴住居・出土遺物(1) …… 21
第14図　5号竪穴住居出土遺物(2) …… 22
第15図　6号竪穴住居・出土遺物、7号竪穴住居 … 24
第16図　7号竪穴住居出土遺物 …… 25
第17図　1・2号掘立柱建物 …… 27
第18図　3～5号掘立柱建物 …… 29
第19図　6・7号掘立柱建物 …… 31
第20図　1・2・4・6号溝配置図 …… 33
第21図　1・2号溝 …… 34
第22図　1号溝出土遺物(1) …… 35
第23図　1号溝出土遺物(2) …… 36
第24図　2号溝出土遺物 …… 37
第25図　4・6号溝、6号溝出土遺物 …… 39
第26図　1・2・3・4・5・7号土坑 …… 41
第27図　8・10・11・13・14・15号土坑 …… 43
第28図　16・17・21・22・23・24号土坑 …… 46
第29図　25・26・27・28・33・34号土坑 …… 49
第30図　35・39・40・41号土坑 …… 51
第31図　2・15・25・26号土坑出土遺物 …… 52
第32図　柱穴配置図 …… 53
第33図　遺構外・表採遺物 …… 54

## 挿表目次

第1表　遺跡一覧表(1) …… 8
第2表　遺跡一覧表(2) …… 9
第3表　柱穴計測表(1) …… 56
第4表　柱穴計測表(2) …… 57
第5表　遺物観察表(1) …… 58
第6表　遺物観察表(2) …… 59
第7表　遺物観察表(3) …… 60

## 写真図版目次

写真図版1　調査区遠景・完掘状況 …… 63
写真図版2　1号竪穴住居完掘・遺物出土状況 64
写真図版3　2号・3号竪穴住居完掘 …… 65
写真図版4　4号・5号竪穴住居完掘 …… 66
写真図版5　6号・7号竪穴住居完掘 …… 67
写真図版6　1号竪穴住居断面・住居内土坑 … 68
写真図版7　住居内土坑・7号竪穴住居断面・柱穴群完掘 …… 69
写真図版8　1・2・4・6号溝完掘、1号溝完掘・断面 …… 70
写真図版9　2・4・6号溝完掘・断面 …… 71
写真図版10　1～4号土坑 …… 72
写真図版11　5・7・8号土坑 …… 73
写真図版12　10・13～15号土坑 …… 74
写真図版13　16・17・21・22号土坑 …… 75
写真図版14　23～26号土坑 …… 76
写真図版15　27・28・33・34号土坑 …… 77
写真図版16　35・39～41号土坑 …… 78
写真図版17　出土遺物(1) …… 79
写真図版18　出土遺物(2) …… 80
写真図版19　出土遺物(3) …… 81
写真図版20　出土遺物(4) …… 82
写真図版21　出土遺物(5) …… 83
写真図版22　出土遺物(6) …… 84

# 第Ⅰ章　調査に至る経緯

島田Ⅱ遺跡は、「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉体地区」の施行に伴って、その事業区域に位置することから発掘調査することとなったものである。

当事業は、水沢市姉体地区の受益面積373haの地区で、水田は昭和32年頃10ha区画に整備されたが、区画形状が小さく農道の幅員も狭い状況であった。

また、小用水路は、土水路で漏水し、用水不足を補うために小排水路は、用排兼用で浅く排水不良となって湿田化しているなど、営農の機械化、耕作の汎用化、さらには農地の流動化、生活環境の向上など、高生産性農業を阻害していた。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を資するために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成９年度新規採択された地区で、平成14年度で６年目である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、水沢地方振興局胆江土地改良事業所から平成９年５月15日付胆土地第146号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（依頼）」の文章によって、岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼したのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成９年６月12日・17日・19日調査を実施したが、その結果は、平成９年７月15日付け教文第353号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（回答）」で水沢地方振興局胆江土地改良事務所へ回答し、その際、工事施工範囲が島田Ⅱ遺跡の範囲内であることが付記された。

回答を受けた水沢地方振興局農政部農村整備室では、島田Ⅱ遺跡を含む面工事実施年度である平成13年９月27日付け水農整第339－４「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって、岩手県教育委員会に依頼した。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成13年10月15日・16日に試掘調査を実施したが、その結果は、平成13年11月６日付け教生第1115号「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉体地区における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」で水沢地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際島田Ⅱ遺跡の発掘調査が必要である旨が付記された。

（水沢地方振興局農政部農村整備室）

# 第Ⅱ章　位置と環境

## 1. 位置・立地

島田Ⅱ遺跡は、岩手県水沢市真城字島田54ほかに所在し、ＪＲ水沢駅より南東約３km、陸中折居駅より北東約５kmに位置している。遺跡が所在する水沢市は、内陸南部中央、北上川中流域に位置し、面積95.63㎢、人口約５万６千人の都市である。市の中央より東寄りに北上川が南流し、その東に東北新幹線、西に国道４号線・東北縦貫自動車道が南北に走っている。近世より市街地は宿場町として栄え、その他の地域は耕地として開発を受け県内でも有数の穀倉地帯となる。東は江刺市と大東町、南は前沢町と東山町、西は胆沢町、北は金ヶ崎町に接する。遺跡が所在する真城は水沢市内でも南に位置する。

遺跡は、北上川西岸に形成された河岸段丘上に立地している。この河岸段丘は水沢扇状地の一つである。水沢段丘上であり比較的平坦な地形を呈し、広範囲に水田地帯が続いている。標高は34ｍ前後である。調査前の現況は水田及び畑地である。

国土地理院発行５万分の１地形図「水沢」（ＮＪ－54－14－14）の図幅に含まれ、北緯39度06分13秒、東経141度09分55秒にある。

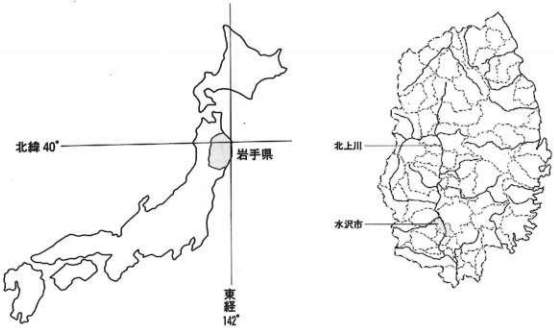
## 2. 地形・地質

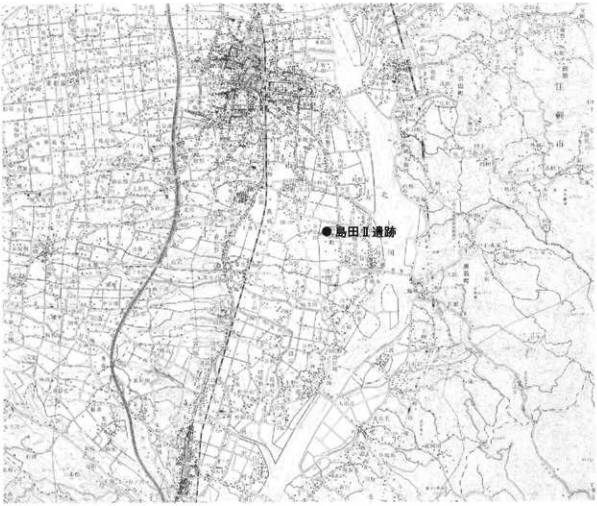
岩手県の地勢は、東に北上山地、西に奥羽脊梁山脈がそれぞれ南北に延び、その合間を河谷低地帯を形成しながら七時雨山に端を発する北上川は岩手県と宮城県を南流し宮城県石巻湾に注ぎ、袖平高原に端を発する馬淵川は北流し青森県八戸湾に注ぐ。その両岸に沖積地を形成し、それぞれ市街地が形成されている。岩手県内陸南部に位置している水沢市の地形に限って概観すると、奥羽脊梁山脈と北上川に挟まれ、奥羽脊梁山脈より東側に張り出した水沢扇状地上にあり、その扇状地は南西方向から北～北東方向へ一首坂段丘・上野原段丘・横道段丘・堀切段丘・福原段丘・水沢段丘などの段丘が標高を下げながら形成している。北上川の両岸には沖積面が広がっている。

本遺跡が存在する水沢段丘の高位段丘は、胆沢川と北上川が合流する地点から前沢町まで続き標高約25～120mの高低差を持つものの、北上川西岸の広範囲には平坦面を形成している。遺跡は、その平坦に続く段丘上の水田面より一段高い微高地に立地している。ただし、調査区周辺はほ場整備事業がすでに完了しており、調査区自体は島状に残された状態であったため、遺跡内及び周辺の詳細な微地形は言及できないが、現況から想定できることをここで触れておく。調査区以外の遺跡範囲内には、現在宅地がある。この宅地は周辺よりは一段高い所にあり、それより低い面は水田及び畑地である。またこの周辺も同様の状況である。遺跡の大半はこれらの宅地がある微高地上に範囲が示されていることから、現況と旧地形はほぼ変わらない状況にあると想定できよう。基本層序でも触れるが、遺跡周辺において１ｍ前後掘り下げると礫層が確認されることから北上川に注ぐ支流の旧河道部分があったと考えられる。

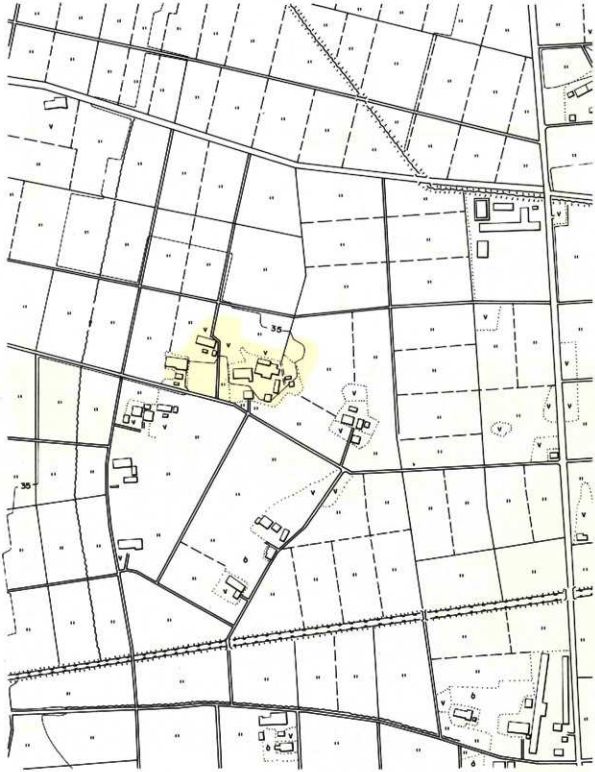
## 3. 基本層序

基本層序はⅠ～Ⅶ層が確認でき、以下の通りである。ただし、発掘調査開始以前に牛涯学習文化課により遺構検出面（Ⅱ層）まで掘り下げられていたため、それより上層の堆積状況は不明である。ただし、遺構検出面より上層に複数の層位があるとは考えられないわけではないが、ここでは便宜的に遺構検出面より上層を表土と記述しておく。




第1図　遺跡位置図




第２図　遺跡周辺図

第３図　地形分類図

Ⅰ層：表土。耕作土と思われるが色調及び層厚等は不明である。
Ⅱ層：褐色粘土質シルト層。粘性並、しまりやや強い。所々に黒褐色粘土質シルト層が混入している。層厚は10cm前後である。遺構検出面である。
Ⅲ層：にぶい黄褐色粘土層。粘性、しまり共にやや強い。層厚は10cm前後である。
Ⅳ層：褐色粘土層。粘性やや強く、しまり強い。層厚は10～15cmである。
Ⅴ層：にぶい黄褐色～黄褐色粘土質シルト層。粘性、しまり共にやや強い。層厚は5～10cmである。
Ⅵ層：褐色砂層。粘性弱く、しまり強い。層厚は5cm前後である。本層が確認できない箇所が存在している。
Ⅶ層：礫層。φ10～30cmの亜円礫で構成されている。北上川に注ぐ支流の旧河道部分に相当するものと思われるが、層厚は不明である。

## 4. 周辺の遺跡

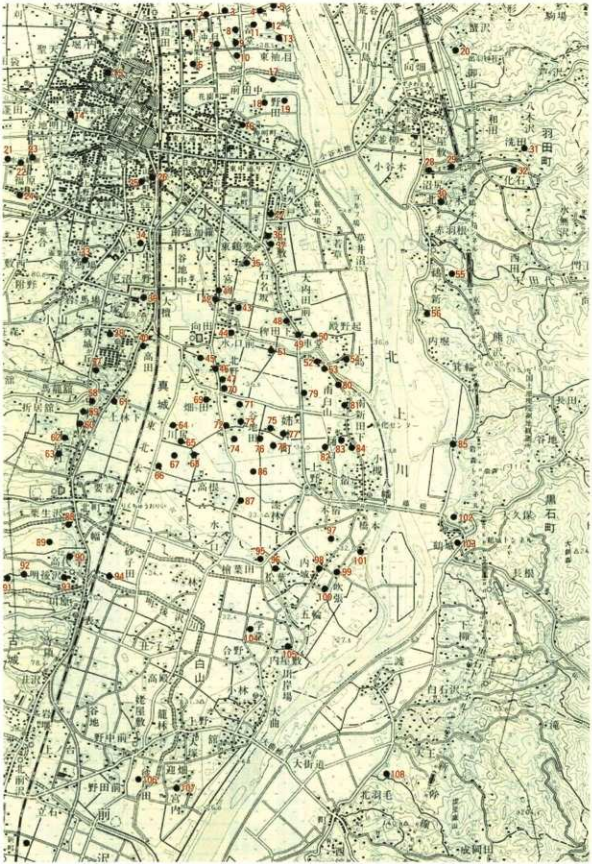
水沢市内には旧石器時代から近世まで数多くの遺跡が存在しており、その数は平成15年現在で308ヵ所ある。発掘調査は古くから行われ、学史的にも著名な弥生時代の宮裏広町遺跡や胆沢城跡などがあり、多くの成果が得られている。また、昭和50年以降には東北縦貫自動車道や国道4号バイパス事業に伴い今泉・西大畑・勝性・東大畑等多くの遺跡が調査され、それらの成果から各時期を通じて水沢市を中心とした状況や周辺地域との関係が明らかになっている。

今回は本遺跡において平安時代の遺構と遺物が確認されたことから、それに限って概観していく。

市内には平安時代として登録されている遺跡数は190遺跡存在している。市内の半数以上は該期の遺跡ということになり、数多くあることが窺える。それらの遺跡分布を見てみると、北上川沿いに形成された水沢低位段丘や水沢高位段丘などの比較的平坦に続く河岸段丘上に立地しているものが多く、本遺跡もその一つである。これらは9世紀初頭に胆沢城が造営されてから、多くの小・中規模の集落がそれを中心に形成されるようになったことに起因し、その結果爆発的に遺跡数が増加していった。胆沢城の盛衰と遺跡数には相関関係にあるものと考えられる。

本遺跡と周辺遺跡との位置関係を把握すると、該期の中心であった胆沢城跡は北に約6kmに、本年度、当センターにより発掘が行われた杉の堂遺跡は北北東約3kmにあり、中半入遺跡は北西6kmにある。

〔第Ⅱ章で使用した引用・参考文献〕
(以下（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを（財）岩文埋とする)
岩手県教育委員会　1999 『遺跡台帳』
(財）岩文埋　2002 『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第380集
(財）岩文埋　2002 『諏訪林Ⅱ遺跡・本宿遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第381集
(財）岩文埋　2000 『川岸場Ⅱ発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第317集
伊藤博幸　1980 「胆沢城と古代集落－自然村落と計画村落」「日本史研究」第80号




第４図　周辺遺跡分布図

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 遺構・遺物等 | 所在地 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後畑 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 佐倉河字後畑 |
| 2 | 梨田川 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 佐倉河字梨田川 |
| 3 | 惣前町 | 散布地 | 弥生・平安 | 土師器 | 佐倉河字惣前町 |
| 4 | 杉ケ崎 | 散布地 | 縄文・平安 | 土師器、フレーク | 佐倉河字杉ケ崎 |
| 5 | 東沖ノ日Ⅱ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器、須恵器系土器 | 佐倉河字東沖ノ日 |
| 6 | 石橋 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 佐倉河字石橋 |
| 7 | 東沖ノ日Ⅰ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 佐倉河字東沖ノ日 |
| 8 | 横枕Ⅱ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器、須恵器系土器、陶器、鉄鏃 | 佐倉河字横枕 |
| 9 | 富堂 | 集落跡 | 平安 | 土師器 | 佐倉河字富堂 |
| 10 | 羽黒山 | 集落跡 | 平安 | 土師器 | 佐倉河字羽黒田 |
| 11 | 横枕 | 散布地 | 縄文・平安 | 土師器、須恵器、フレーク | 佐倉河字横枕 |
| 12 | 中前田 | 集落跡 | 弥生・平安 | 弥生土器、土師器、須恵器 | 佐倉河字中前田 |
| 13 | 東袖ノ目 | 集落跡 | 縄文・平安 | 土師器、須恵器、縄文土器(晩期) | 佐倉河字東袖ノ目 |
| 14 | 蔵野 | 散布地・生産地 | 縄文・平安・近世 | 縄文土器、羽口、鋳型 | 羽田町字御山下 |
| 15 | 谷地明円 | 散布地 | 平安 | 土器 | 字谷地明円、斎の神 |
| 16 | 西竜一宇・石碑塚 | 経塚 | 近世 | 石碑、経石 | 生母字西舘 |
| 17 | 北山Ⅰ | 集落跡 | 平安 | 須恵器 | 佐倉河字北田 |
| 18 | 野田 | 散布地 | 縄文・平安 | 土師器、石鏃 | 佐倉河字野田 |
| 19 | 北山Ⅲ | 散布地 | 弥生・平安 | 弥生土器、内黒、土師器 | 佐倉河字北田・字野田 |
| 20 | 館(岩渕館) | 城館跡 | 鎌倉・平安・中世 | | 神明町一丁目 |
| 21 | 南矢中Ⅱ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 字南矢中 |
| 22 | 北田 | 集落跡 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 字北田 |
| 23 | 高屋敷 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 字高屋敷・字北山 |
| 24 | 福原 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 字福原 |
| 25 | 小山崎 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器(中期)、土師器、須恵器 | 山崎町 |
| 26 | 梨畑 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器(中期)、石器 | 東上野町・山崎町 |
| 27 | 大学Ⅰ | 集落跡 | 縄文・平安 | 土師器、須恵器、フレーク | 真城字大学 |
| 28 | 旧羽田中 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 羽田町字沼尻 |
| 29 | 沼尻南 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 羽田町字沼尻 |
| 30 | 新羽田小西 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 羽田町字洗田 |
| 31 | 北親ノ木 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器(後・晩期)、石鏃、石斧 | 羽田町字北親ノ木 |
| 32 | 外浦洗田 | 窯跡 | 平安 | 須恵器 | 羽田町字外浦 |
| 33 | 外浦前田 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器、石鏃 | 羽田町字前田 |
| 34 | 龍ケ馬場 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 字龍ケ馬場 |
| 35 | 須江 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中上野 |
| 36 | 北余目 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字北余山・原ノ西 |
| 37 | 町屋敷(浦台野館) | 散布地 | 縄文・平安・近世 | 土師器、フレーク | 真城字町屋敷 |
| 38 | 垣ノ内Ⅱ | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文十器、土師器、フレーク | 真城字垣ノ内 |
| 39 | 雷神Ⅰ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字雷神・字鶴鳴・字E-TH字博 |
| 40 | 大壇 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字大壇・南上野 |
| 41 | 高田 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字高田 |
| 42 | 林前Ⅰ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字逗畑 |
| 43 | 林前Ⅱ | 散布地 | 縄文・平安 | 土師器、石器 | 姉体町字林前 |
| 44 | 林前Ⅲ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字林前 |
| 45 | 水の口 | 散布地 | 平安 | 須恵器 | 姉体町字水の口前 |
| 46 | 北野Ⅲ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字北野 |
| 47 | 畑田荒谷 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字荒谷 |
| 48 | 寺西南 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 佐倉河字寺西 |
| 49 | 姉体車堂Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字車堂神田下 |
| 50 | 姉体車堂Ⅲ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字車堂 |
| 51 | 水ノ口前東 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字水ノ口前 |
| 52 | 元天神前Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字元天神前字北白山 |
| 53 | 北白山Ⅰ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字北白山 |
| 54 | 上島 | 散布地 | 平安 | | 姉体町字上島 |

**第1表　遺跡一覧表(1)**

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 遺構・遺物等 | 所在地 |
|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 鵜ノ本新田 | 散布地・集落跡 | 縄文・平安 | 縄文土器(前期)、土師器、須恵器 | 字鵜ノ本新田 |
| 56 | 鵜ノ本新田南 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器 | 黒石町字鵜ノ本新田 |
| 57 | 浜田 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 真城字浜田 |
| 58 | 中林A | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中林 |
| 59 | 中林B | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中林 |
| 60 | 中林Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中林 |
| 61 | 中林下 | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中林下 |
| 62 | 堤ケ沢Ⅱ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字堤ケ沢 |
| 63 | 堤ケ沢Ⅰ | 集落跡 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字堤ケ沢 |
| 64 | 真城落合 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字落合 |
| 65 | 十手北 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字上手 |
| 66 | 谷地館 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字谷地館 |
| 67 | 二ツ調北 | 散布地 | 平安 | 須恵器 | 真城字二ツ調 |
| 68 | 土手南 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字土手 |
| 69 | 中平西 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中平 |
| 70 | 東谷地 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字東谷地 |
| 71 | 中平東 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字中平 |
| 72 | 寺ケ前Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字谷地山 |
| 73 | 寺ケ前Ⅲ | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字谷地田 |
| 74 | 寺ケ前Ⅰ | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字谷地山 |
| 75 | 島山Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字島田 |
| 76 | 島田Ⅲ | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字島山 |
| 77 | 島山Ⅳ | 散布地 | 平安 | 土師器 | 真城字島田 |
| 78 | 島田Ⅰ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 真城字島田 |
| 79 | 根無 | 散布地・墳墓 | 平安 | 土師器(平安時代) | 姉体町字根無 |
| 80 | 北白山Ⅱ | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字北白山 |
| 81 | 神 | 散布地 | 平安 | 須恵器(平安時代) | 姉体町字目細 |
| 82 | 原抜 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字原抜 |
| 83 | 櫃ノ口 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 姉体町字櫃ノ口 |
| 84 | 小庄 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字小庄 |
| 85 | 岩手堰神社 | 散布地・集落跡 | 平安 | 社殿 | 黒石町字大明神 |
| 86 | 下植田 | 散布地 | 平安 | 須恵器 | 真城字下植田 |
| 87 | 南下田 | 散布地 | 平安 | 須恵器 | 真城字南下田 |
| 88 | 熊野 | 散布地 | 平安 | 丸 | 古城字幅 |
| 89 | 幅 | 散布地・瓦窯跡？ | 縄文・平安 | 縄文土器・土師器・焼土 | 古城字幅、南沼、志入沢 |
| 90 | 八郎館(高代寺) | 散布地・城館跡 | 平安・中世・縄文 | 土師器、須恵器、硯、鄂 | 古城字高代寺 |
| 91 | 鳥子沢 | 散布地・城館跡 | 平安・中世 | 堀跡・土師器 | 古城字鳥子沢 |
| 92 | 明後沢 | 散布地・城館跡？ | 平安 | 布目丸・屋根丸・鬼瓦 | 古城字明後沢 |
| 93 | 宗角館 | 城館跡 | 中世・平安 | | 古城字姥沢 |
| 94 | 舘合下 | 散布地 | 平安 | 土師器、須恵器 | 古城字舘合下 |
| 95 | 遺場 | 散布地 | 縄文 | 縄文土器(後期) | 字遺場・舘 |
| 96 | 内城野中 | 散布地 | 縄文～平安 | 縄文土器、土師器 | 姉体町字内城、野中 |
| 97 | 迎畑 | 散布地・舘跡？ | 平安？ | 須恵器？(中世陶器？) | 姉体町字鏡沿屋敷・迎畑 |
| 98 | 内城吹張 | 散布地 | 縄文～平安 | 縄文土器？・土師器 | 姉体町字深河・内城・吹張 |
| 99 | 吹張 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字吹張 |
| 100 | 吹張鞘戸 | 散布地 | 平安 | 須恵器 | 姉体町字吹張・鞘戸 |
| 101 | 庚申塚 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 姉体町字庚申塚 |
| 102 | 鶴城館(黒石古館) | 城館跡 | 平安・中世 | 土師器、須恵器、石臼、平瓦 | 黒石町字鶴城 |
| 103 | 鶴城 | 散布地 | 縄文・平安 | 縄文土器(後・晩期)、須恵器 | 黒石町字鶴城 |
| 104 | 学堂 | 散布地 | 平安 | | 白山字学堂 |
| 105 | 内屋敷 | 散布地 | 平安 | 土師器 | 白山字内屋敷 |
| 106 | 彼岸田 | 散布地 | 縄文・平安 | | 白山字彼岸田 |
| 107 | 迎畑 | 散布地 | 奈良・平安 | | 白山字迎畑・宮内 |
| 108 | 壇の腰 | 散布地 | 縄文・平安 | | 生母字壇ノ腰 |

**第2表　遺跡一覧表(2)**

# 第Ⅲ章　調査概要と整理方法

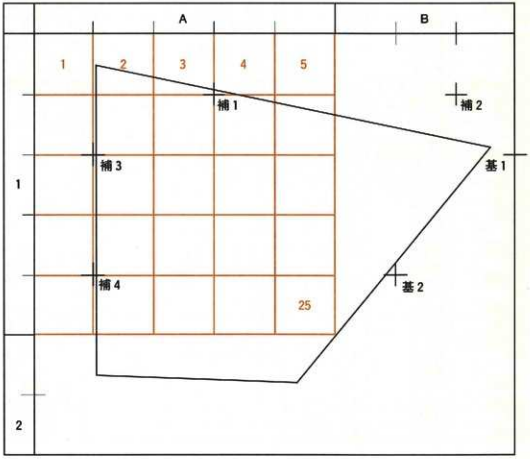
## 1. 野外調査の方法

（1）グリッド設定

本遺跡のグリッド設定にあたり、平面直角座標・第X系（世界測地形）に従って基準点２カ所と補点４カ所の計６カ所を設置したグリッドを延長して使用している。

基準点２点を結んだ線を基準線とし、さらに補点で結んだ線をこの基準線に直行させ調査区を網羅するようにメッシュを設定している。大グリッドは１辺が25ｍ、小グリッドは各辺を５等分して１辺が５ｍになるようにしている。大グリッドは西から東に向かってＡ・Ｂ、北から南に向かって１･２とし、小グリッドは北西隅を１、南東隅を25とした。各グリッド名称は北西隅の杭名称による。

| | X | Y | H | グリット名 |
|---|---|---|---|---|
| 基準点１ | －99450.000 | 28730.000 | 33.865 | １Ｂ14 |
| 基準点２ | －99460.000 | 28720.000 | 33.939 | １Ｂ22 |
| 補　点１ | －99445.000 | 28705.000 | 34.059 | １Ａ９ |
| 補　点２ | －99445.000 | 28725.000 | 33.695 | １Ｂ８ |
| 補　点３ | －99450.000 | 28695.000 | 34.015 | １Ａ12 |
| 補　点４ | －99460.000 | 28695.000 | 34.134 | １Ａ22 |




第５図　グリット配置図

（2）遺構名称

遺構名称において、遺構配置図（第7図）の中では以下のように省略している。

竪穴住居…ＳＩ　　掘立柱建物……ＳＢ　　溝……ＳＤ　　土坑……ＳＫ

柱穴には番号のみ付してある。また、住居に付属する柱穴にはＰの略号を使用している。

発掘調査や室内整理時に遺構番号を付したものの遺構として成立しなかったのは、30・31・36・38号土坑と５号溝がある。また３号溝は２号溝と同一のものであったため番号として存在していない。

遺構番号を精査時に変更したものとしては、29号土坑を５号竪穴住居内の３号土坑とした。６・９・12・18・19・20・32・37号土坑は、柱穴に変更したため番号として存在していない。

（3）粗掘り・遺構検出・精査

本遺跡では調査に入る以前に生涯学習文化課が遺構確認したことにより表土は除去され、遺構検出面まで掘り下げが行われていた。そのため、調査開始直後に遺構検出作業が行える状態にあった。

遺構検出は、検出面の層界をジョレン及び両刃鎌で行った。

精査は検出された遺構を適宜２分法と４分法を使い分けて行い、必要な記録は野帳や図面等に記録した。また、遺構の精査では、サブトレンチを積極的に利用し、正確な遺構の把握に務めた。

（4）実測

遺構の平面実測は、簡易遣り方測量と平板測量で作成している。縮尺は原則として１/20とし、溝平面図と調査区作成にのみ１/40の縮尺を用いた。

（5）写真

写真撮影は、35mm判カメラ２台（モノクロ・リバーサル）と６×９cm判カメラ１台（モノクロ）を使用し、遺構や遺物の検出状況や出土状況に応じて行っている。

（6）広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙普及活動の一環として、調査成果を公開する現地公開を平成14年８月24日に開催している。

## 2. 室内整理の方法

（1）作業手順

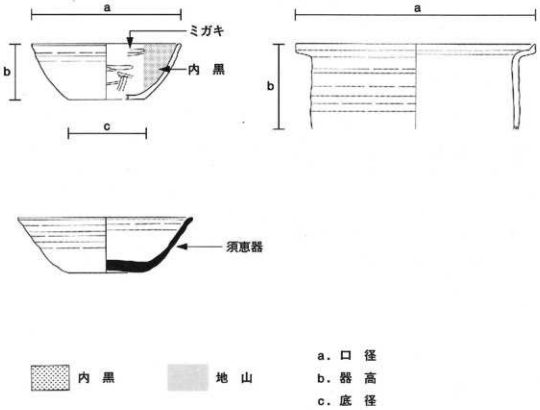
出土遺物の水洗は発掘調査期間中に終了していたため、室内作業としては注記から開始し、遺物の接合復元、本報告書掲載遺物の登録を行った。それらの作業終了後に実測、遺物写真撮影、遺構・遺物のトレースを順に行い、図版及び観察表を作成した。また、先述した作業と平行して原稿執筆を行っている。

（2）遺構

遺構図版は、平面図と断面図の修正を行ったものにスケールを付しており、一部例外があるものの以下の縮尺を原則としている。遺構配置図及び柱穴配置図は１/160、竪穴住居・掘立柱建物は１/50、溝は１/80、土坑は１/40である。それぞれの遺構に付してある方位は第Ｘ系の北、方位がないものにはグリッドでその方角を示している。

（3）遺物

土器実測は原則として反転可能なものに限定して行い、須恵器の断面実測に関しては積極的に実測を行った。

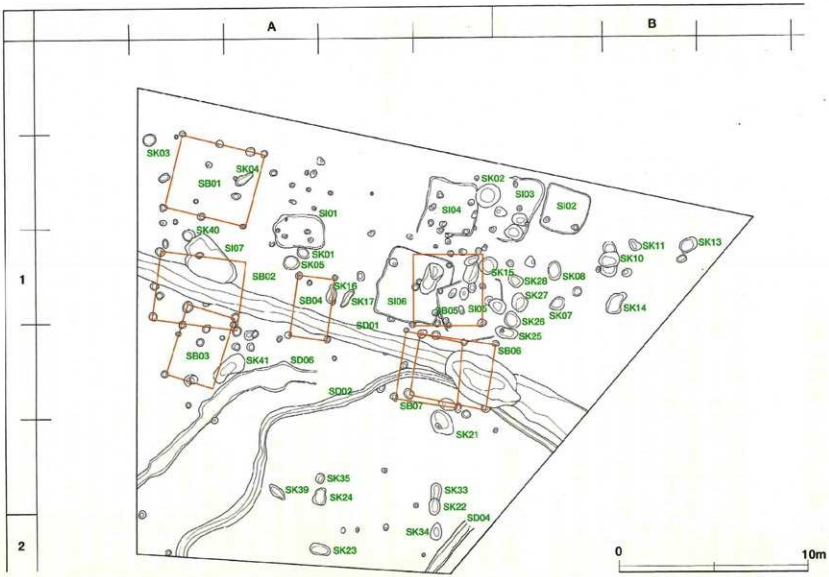



第6図　凡例

掲載遺物の縮尺率は以下に記す。土師器・須恵器・陶磁器は1/3とし、各図版ごとに縮尺を示している。遺物写真図版も実測図と同様の縮尺を用いている。掲載番号と写真番号は同一のものを付してある。

（4）凡例

本書で掲載したスクリントーンや実測中で使用している凡例は、第6図の通りである。観察表中で使用している法量の推定値は〈○〉、残存値〈○〉・計測値はcmで表示している。


A
B
1
2
SK03
SK04
SB01
SK40
SI07
SI01
SK01
SK05
SB02
SK16
SB04
SK17
SI06
SD01
SB03
SK41
SD06
SD02
SK02
SI03
SI04
SI02
SK11
SK13
SK10
SK15
SK28
SK08
SK27
SK07
SK14
SB05
SI05
SK26
SK25
SB06
SB07
SK21
SK35
SK39
SK24
SK33
SK22
SD04
SK34
SK23
0
10m

第７図　遺構配置図

# 第Ⅳ章　検出された遺構と遺物

## 1. 概要

本遺跡は、平坦な水田地帯が広がる段丘面上にあり、周辺の水田面より若干高い微高地上に位置している。第Ⅱ章で先述したように、今回は当センターの調査が入る以前に生涯学習文化課によって表土除去が行われていたため、地形や遺構検出面より上層の層序等の詳細な状況を把握できていない。

今回の調査はその微高地上に形成された遺跡の一部分を発掘した結果、平安時代の竪穴住居７棟、掘立柱建物７棟、溝４条、土坑21基、柱穴状ピット66基（建掘立柱物に含まれるものは39基）検出されている。それらに伴い土師器と須恵器の坏や甕が確認されている。また、時期不明の遺構としては土坑７基と柱穴状ピット13基がある。縄文から弥生時代に属する石器が先述した各遺構から出土しているが、これらは点数も少なく流れ込みの結果上記の遺構から出土したものと判断したため、ここでは掲載せずそれらの数量だけを記述し報告とする。

## 2. 検出された遺構・遺物

### 1）竪穴住居

#### 1号竪穴住居

［位置］１Ａ７・８・12・13グッリドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］遺構検出後に隅丸長方形の平面プランを確定できたことにより竪穴住居と判断し精査に入る。精査を行ったが、埋土は浅く遺構上部が削平されていることを確認した。

［平面形］平面形は、西壁が若干膨らみを持つ隅丸長方形を呈する。

［規模］規模は2.71×1.77m、深さは0.16mである。

［埋土］黒褐色粘土質シルト層が主体で、６層に分層される。

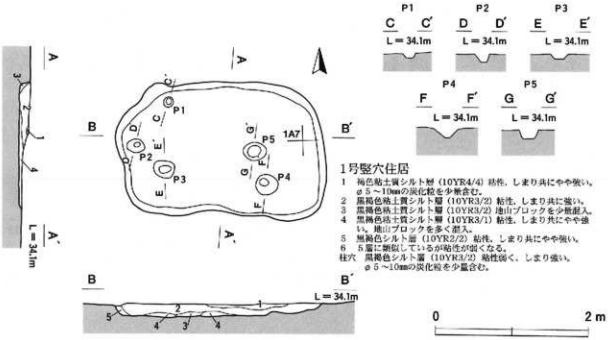
［床面・壁］床面はⅢ層を掘り込むように形成され、平坦である。中央より西側の床面で薄い貼り床を一部確認したが、硬化面は検出されなかった。壁は基本的に緩やかに外傾する。しかし、南壁は削平を強く受けているためほとんど存在していない。

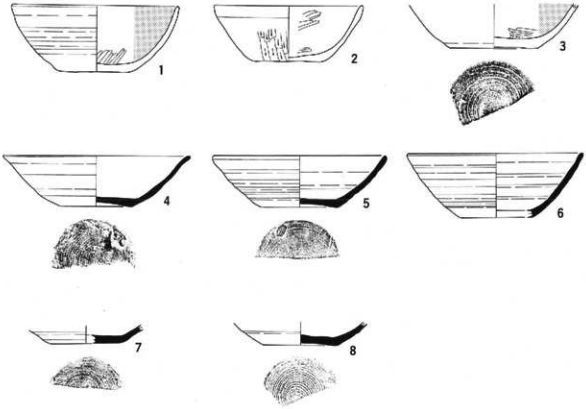
［柱穴］柱穴は規模・形状共に類似している５基が検出された。ほぼ中央から北西よりに確認されているが、それらのうち３・４号柱穴は主柱穴の可能性がある。

［カマド・焼土］カマドは確認されなかったが、焼土が南壁に集中して確認できたことから、南壁付近にその存在を想定できる。ただし本遺構外において煙道や煙り出し穴は検出されなかった。

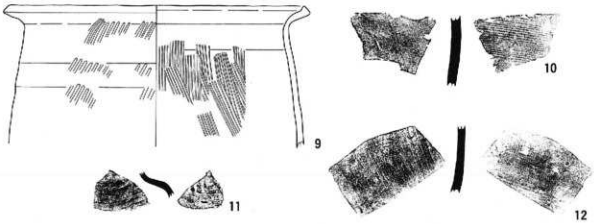
［遺物］土師器（145点）と須恵器（17点）の坏・甕などが埋土上位から床面にかけて162点出土しており、図面掲載できたものは12点であった。１・３は土師器・坏で内面に黒色処理とミガキが施されている。２は剥落していたが、内面に黒色処理とミガキと思われる一部を確認した。それらは底部から口縁まで膨らみながら立ち上がる。４～８は須恵器・坏で底部から口縁まで外傾しながら立ち上がる。土師器と須恵器・坏の底部切り離しはヘラ切りと回転糸切りのものが存在している。９は土師器・甕、10・12は須恵器・甕である。11は須恵器・瓶の肩部である。

［遺構時期］10世紀前半に所属する。




**第8図　1号竪穴住居・出土遺物(1)**




**第９図　１号竪穴住居出土遺物（２）**

２号竪穴住居

［位置］１Ｂ６グッリドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］遺構検出後に少量の遺物と焼土が確認されたことにより、竪穴住居が存在するものと想定していた。しかし、プランが不明瞭であったため再度検出作業を行った際に、２～４号竪穴住居になる方形プランを重複した状況で確認できた。また地山と埋土との判別が付けられないでいた当初は、それらの新旧関係を把握するために東西に細長いトレンチを入れた。その結果本遺構は他の竪穴住居と重複しない状況にあり、断面で壁の立ち上がりを確認でき方形プランを呈することが明らかになった。本遺構は上部が削平を受け床面しか残存していないことを認識し精査に入る。

［規模］規模は2.38×2.36m、深さは0.05mである。

［平面形］北東や南東隅は若干丸味を帯びるが、平面形はほぼ方形を呈する。

［埋土］暗褐色シルト層が主体で、単層である。

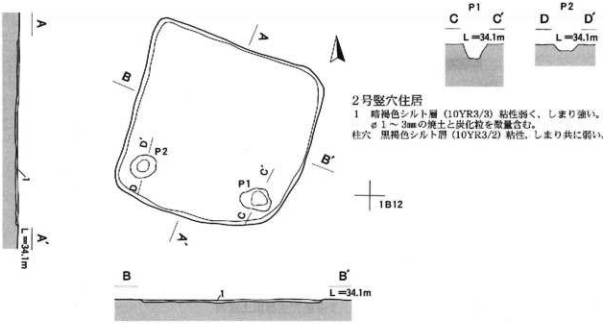
［床面・壁］Ⅱ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平坦である。硬化面や貼り床等は確認されていない。壁は削平を受けているためほとんどないが、残存している壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴］南西・南東隅に１基ずつ確認された。配置された箇所及び平面形は類似しているが、深さは若干異なる。

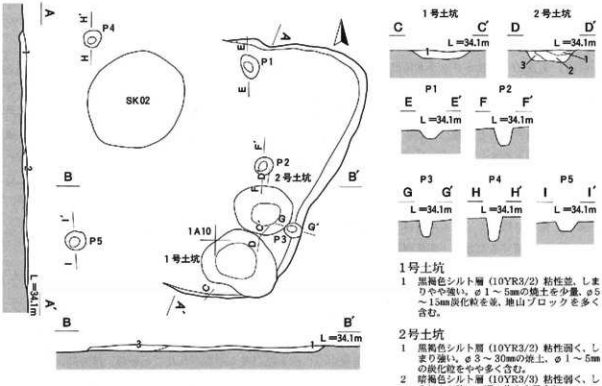
［カマド・焼土］カマドは確認できなかったが、南東隅に焼土範囲が確認できたことから南東方向にカマドが設置されていたと考えられる。ただし本遺構外において煙道・煙り出し穴は検出されなかった。

［遺物］土師器（16点）と須恵器（４点）の坏・甕などの遺物が20点出土しているが、大半の遺物は磨滅しているため図面掲載が不可能であった。

［遺構時期］10世紀前半に所属する。




2号竪穴住居
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性弱く、しまり強い。
φ1～3mmの焼土と炭化粒を微量含む。
柱穴　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に弱い。




3号竪穴住居
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまりやや強い。
φ1～15mm焼土と炭化粒をやや多く含む。
2　褐色シルト層（10YR4/4）粘性弱く、しまり強い。
3　褐色シルト層（10YR4/4）粘性弱く、しまり強い。

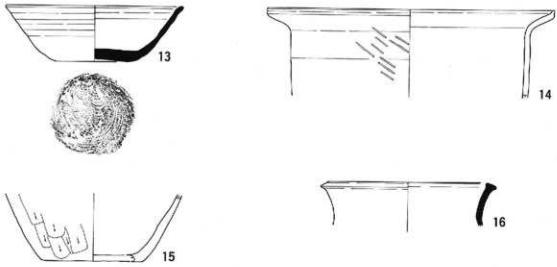
柱穴　黒褐色シルト層（10YR3/1）が主体、地山ブロックと焼土を多量に含む。

1号土坑
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。φ1～5mmの焼土を少量、φ5～15mm炭化粒を並、地山ブロックを多く含む。

2号土坑
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。φ3～30mmの焼土、φ1～5mmの炭化粒をやや多く含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性弱く、しまりやや強い。混入物を少量含む。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまりやや強い。地山ブロックを少量含む。

0　2 m

**第10図　2・3号竪穴住居**




**第11図　3号竪穴住居出土遺物**

### 3号竪穴住居

［位置］１A10・１B６グッリドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］２号竪穴住居の検出状況でも記載したが、重複している範囲に東西に細長いトレンチを入れた結果、４号竪穴住居と重複していることが明らかになった。住居上半部が削平を受けている事を確認し、床面のみの精査となる。また遺構検出作業において２号土坑と重複していることを認識した。

［重複関係］２号土坑と４号竪穴住居と重複するが、本遺構の方が古い。これは４号竪穴住居が本遺構に付属する５号柱穴に切られていることから判断している。

［規模］規模は残存している東壁は3.31m、北壁は1.86m、南壁は1.26m、深さは0.1mである。

［平面形］確認できた北東・南東隅は隅丸方形を呈している。

［埋土］黒褐色シルト層主体で、３層に分層される。

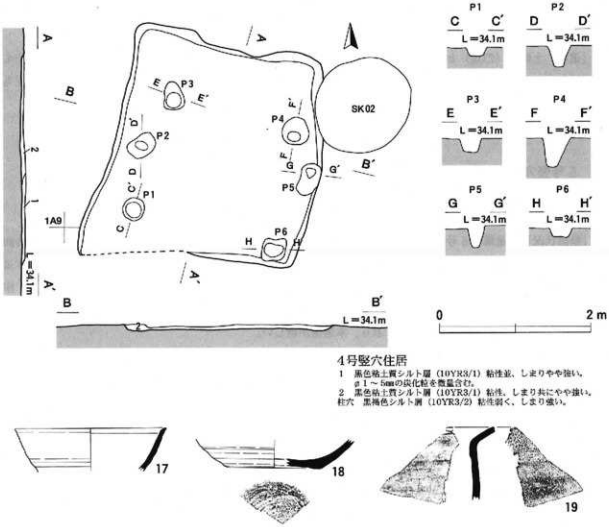
［床面・壁］Ⅱ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴・土坑］南東隅に土坑２基、柱穴５基が検出された。柱穴の配置と住居の平面プランは若干ずれている。

［カマド］カマドは確認されなかったが、南壁中心に焼土粒が多く確認されたことから、南方向にカマドが設置されていたと考えられる。ただし本遺構外において煙道や潜り出し穴は検出されなかった。

［遺物］土師器（157点）と須恵器（９点）の坏・甕などが床直及び土坑内から166点出土している。大半は磨滅しているため図面掲載できたものは僅かである。14は須恵器・坏で、底部から口縁にかけて外傾して立ち上がり、底部切り離しは回転糸切りによるものである。15・16は土師器・甕、17は須恵器・甕である。

［遺構時期］10世紀前半に所属する。




**第12図　4号竪穴住居・出土遺物**

### 4号竪穴住居

［位置］ 1A10・15グッリドに位置する。

［検出面］ Ⅱ層。

［検出状況］ 3号竪穴住居の検出状況に記載した通りである。

［重複関係］ 2号土坑と3号竪穴住居と重複し、3号竪穴住居→本遺構→2号土坑の順に新しくなる。

［規模］ 規模は2.85×2.75m、深さは0.05～0.1mである。

［平面形］ 後世により削平を受け南西付近では検出できなかったが、残存しているそれぞれの隅から平面形は方形を呈すると思われる。

［埋土］ 黒色粘土質シルト層が主体で、2層に分層される。

［床面・壁］ Ⅱ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平坦である。南壁の一部は削平されているが、残存している壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴］ 東・西壁の際に3基ずつ検出された。規模と平面形は類似しているが、各柱穴の深さは異なる。

［カマド］カマドや焼土等は確認されなかった。また、遺構外において煙り出し穴や煙道は検出されなかった。

［遺物］土師器（73点）と須恵器（3点）の坏・甕などが76点床面から出土しているが、図面掲載できたものは3点である。17・18は須恵器・坏で、それぞれ体部から口縁と底部から体部へとやや膨らみながら立ち上がる。19は須恵器・甕である。

［遺構時期］10世紀前半に所属する。

### 5号竪穴住居

［位置］1A10・15グッリドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］本遺構と6号竪穴住居が重複した状況でプランが検出された。プランが不明瞭であったため両遺構にかかるようにトレンチを入れ、本遺構の壁の立ち上がりが新しいことを確認した。トレンチから本遺構は床面のみの存在であることを認識し精査に入る。また、29号土坑と当初重複していると思われたが、床面から掘り込まれていると判断できたことから住居内の施設として捉え精査を継続する。

［重複関係］6号竪穴住居と重複しており、本遺構が新しい。

［規模］規模は3.47×3.27m、深さは削平され確認できない所もあるが概ね0.05mである。

［平面形］後世により削平を受けていたが、確認できた北東・北西隅は隅丸方形を呈する。

［埋土］黒色シルト層主体で、単層である。

［床面・壁］Ⅱ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平扒である。部分的に貼り床が住居の壁付近で確認されたが、浅いものであった。南西・南東壁付近の壁が削平されているものの僅かに残存している壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴・土坑］土坑は北壁で2基、東壁中央で1基検出された。柱穴は北西・南東隅で1基ずつ確認されている。

1号土坑～平面形は楕円形を呈する。規模は0.64×0.46m、深さは0.12mである。

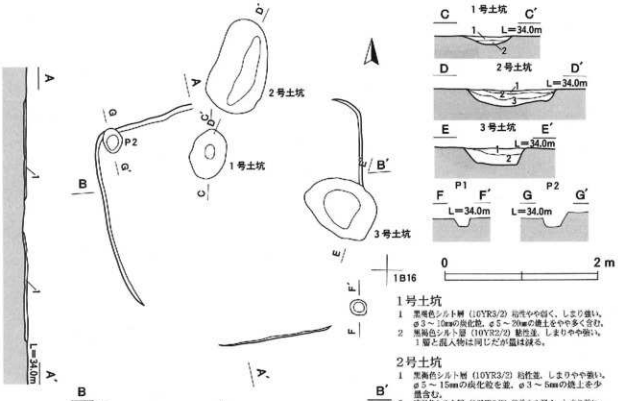
2号土坑～平面形は楕円形を呈する。規模は1.25×0.72m、深さは0.21mである。

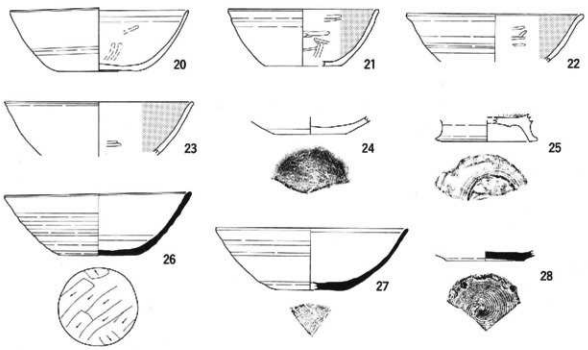
3号土坑～平面形は不整円形を呈する。規模は0.98×0.71m、深さは0.22mである。埋土上位から下位にかけて土師器が15点出土している。

柱穴は配置や平面形、規模等が類似している。

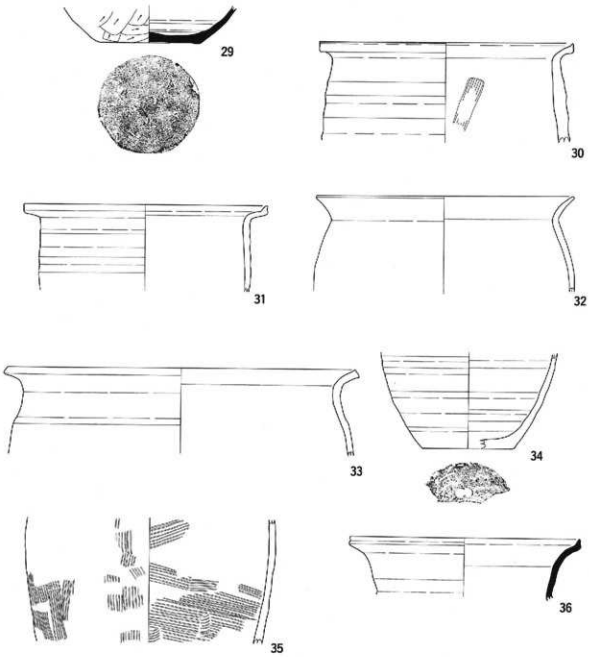
［カマド］住居の床面近くまで削平を受けていることから、カマド施設は確認されなかった。しかし、1号土坑や2号土坑の埋土において焼土や炭化粒が確認されたことから、カマドは北壁に設置されていた可能性がある。そのため焼土や炭化粒が多く検出された2号土坑は、検出された位置から煙道の掘り方とも考えられる。

［遺物］土師器（196点）と須恵器（10点）の坏・甕などが206点出土しているが、掲載できたものは17点あり、大半が磨滅しているため図面掲載は行っていない。20～25は土師器・坏で、25は高台を有する。20～23は内面に黒色処理とミガキが施されている。26～29は須恵器・坏である。土師器と須恵器・坏を合わせて見ていくと、すべて底部から膨らみをもつものである。20・21・26は口縁まで外傾しながら立ち上がり、22・23・27は口縁付近で外反する。30～35は土師器・甕で、34の底部から体部にかけて残存している以外は、30～33が口縁から頸部にかけてのものである。口唇部を抽出すると上に摘み上げられるもの（30・31）と外反




第13図　5号竪穴住居・出土遺物（1）




第14図　5号竪穴住居出土遺物(2)

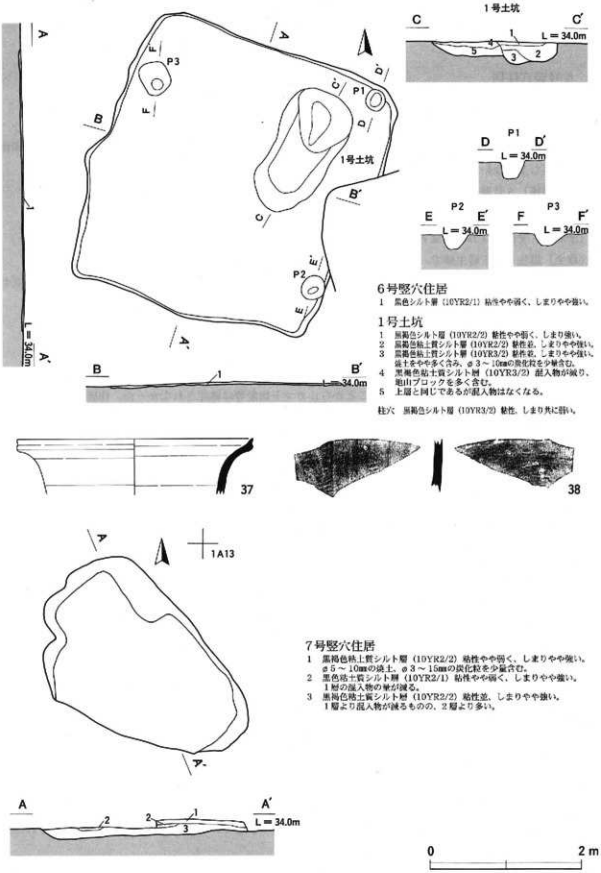
するもの（32・33）の2種類が存在している。36は須恵器・甕である。
［遺構時期］10世紀前半に所属する。

### 6号竪穴住居

［位置］1A14・15グッリドに位置する。
［検出面］Ⅱ層。
［検出状況］5号竪穴住居の検出状況で記載した通りである。後世により削平を受け、埋土は浅くほぼ床面しか残存していないことを確認し精査に入る。
［重複関係］5号竪穴住居と重複しているが、本遺構の方が古い。
［規模］規模は3.69×3.62m、深さは0.05mである。
［平面形］平面形は方形を呈する。
［埋土］黒色シルト層主体で、単層である。
［床面・壁］Ⅱ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平坦である。残存する僅かな壁は外傾して立ち上がる。
［柱穴・土坑］土坑は1基、柱穴は東壁に2基、西壁に1基検出された。
1号土坑～平面形は楕円形を呈する。規模は1.71×0.91m、深さは0.3mである。
柱穴は基本的には壁際に配置され、平面形と規模共に類似している。
［カマド］床面近くまで削平されていたことから、カマド施設等は確認されなかった。住居内で検出された土坑の埋土やその付近において焼土が多く検出されたことから、北東付近にカマドが設置されていたものと考えられる。ただし、本遺構周辺において煙道や煙り出し穴は検出されなかった。
［遺物］土師器（95点）と須恵器（6点）の坏・甕などが111点出土している。大半が磨滅しているため図面掲載できたのは、37と38の須恵器・甕2点のみである。
［遺構時期］10世紀前半に所属する。
［備考］遺構時期は5号竪穴住居との重複関係から判断している。

### 7号竪穴住居

［位置］1A12グッリドに位置する。
［検出面］Ⅱ層。
［検出状況］遺構検出した時点で、1号竪穴住居同様の隅丸方形を呈するプランを確定できていた。1号溝との切り合い関係を把握し、1号溝の精査終了後に一部プランが不明瞭な箇所にサブトレンチを入れ壁の立ち上がりを確認した。結果、本遺構の埋土は浅く床面のみ残存していることを認識し精査に入る。
［重複関係］1号溝と40号土坑と重複しており、40号土坑→本遺構→1号溝の順に新しくなる。
［規模］規模は3.07×2.01m、深さは0.32mである。
［平面形］1号溝によって切られているが、平面形は隅丸長方形を呈していたと思われる。
［埋土］黒褐色粘土質シルト層主体で、3層に分層される。埋土には多くはないものの炭化粒や焼土が含まれている。
［床面・壁］Ⅲ層を掘り込むように形成された床面は、ほぼ平坦である。一部で浅い貼り床が確認された。




6号竪穴住居

1　黒色シルト層（10YR2/1）粘性やや弱く、しまりやや強い。

1号土坑

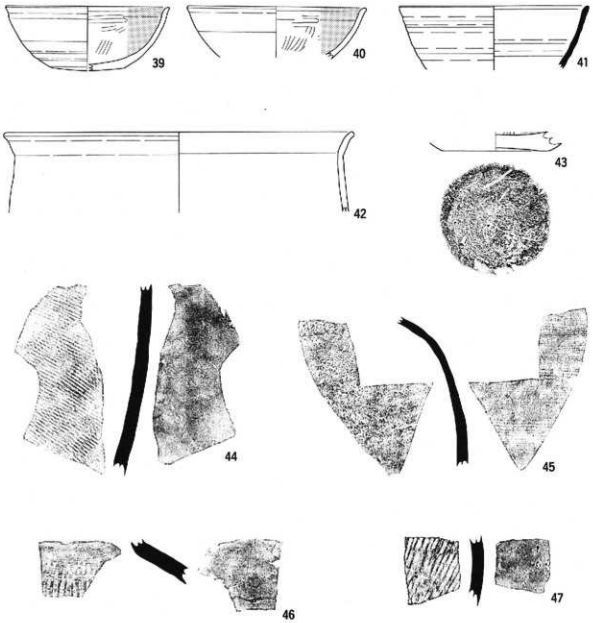
1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまり強い。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性弱、しまりやや強い。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性弱、しまりやや強い。
　焼土をやや多く含み、φ3～10mmの炭化粒を少量含む。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）混入物が減り、黒ボクブロックを多く含む。
5　上層と同じであるが混入物はなくなる。

柱穴　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に弱い。

7号竪穴住居

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土、φ3～15mmの炭化粒を少量含む。
2　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性やや弱く、しまりやや強い。
　1層の混入物の量が減る。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性並、しまりやや強い。
　1層より混入物が減るものの、2層より多い。

**第15図　6号竪穴住居・出土遺物、7号竪穴住居**




第16図　7号竪穴住居出土遺物

壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴］柱穴は確認できなかった。

［遺物］土師器（97点）と須恵器（17点）の坏・甕などが114点出土している。大半が磨滅しているため図面掲載できたのは9点である。39・40は土師器・坏で、内面に黒色処理とミガキが施されている。41は須恵器・坏である。どちらの坏も体部は膨らみながら口縁まで立ち上がる。42・43は土師器・甕で、43の内面には黒色処理とミガキが施されている。44～47は須恵器・甕である

［遺構時期］10世紀前半に属すると思われる。

［備考］本遺構は柱穴やカマド等の竪穴住居と判断する材料が得られなかったことから住居状遺構と判断できる。しかし今回は、1号竪穴住居とした遺構と類似した規模や平面形を呈していることや貼り床と思われるものを確認できたことから竪穴住居と判断している。また、遺構時期を10世紀前半とした1号溝に切られているが、出土遺物からは溝との時期差はないと考えている。

## 2）掘立柱建物

### 1号掘立柱建物

［位置］1A7・8グリッドに位置している。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］周辺にも柱穴が多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。

［重複関係］なし。

［平面形式］桁行4.39m×梁行4.08mで、方形のプランを呈する。

［柱間寸法］7尺（1.96m）である。

［軸線方向］N－17°－E。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］10世紀以前に所属すると思われる。

［備考］遺構時期は他の建物と同じ埋土主体層であることから判断している。

### 2号掘立柱建物

［位置］1A12・13・17・18グリッドに位置している。

［検出面］Ⅱ層。

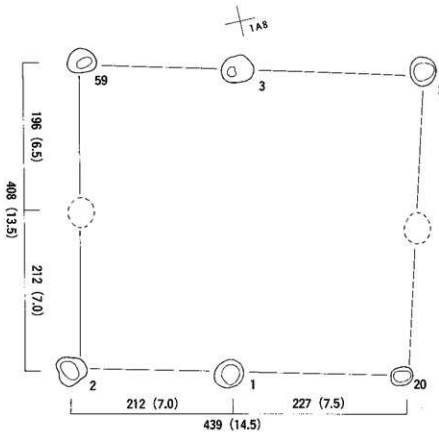
［検出状況］P18・33・34は精査当初から柱穴として認識をしていたが、周辺にも多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。

［重複関係］7号竪穴住居と1号溝と重複する。7号竪穴住居の貼り床の下から確認されたP89が本遺構を形成することや、7号竪穴住居は1号溝より古いことから判断すると、本遺構→7号竪穴住居→1号溝の順に新しくなる。ただし、プランが重なる3号掘立柱建物との新旧関係は不明である。

［平面形式］桁行4.68m×梁行3.77mで、長方形のプランを呈する。

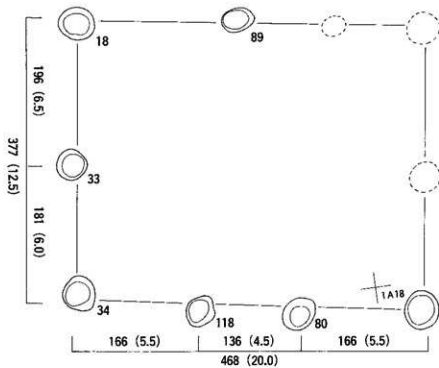
［柱間寸法］6.5尺（1.96m）である。

［軸線方向］N－8°－E。




1号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1A7 | 39×35 | 13.4 | | |
| 2 | 1A7 | 42×39 | 34.37 | | |
| 3 | 1A7 | 42×30 | — | | |
| 20 | 1A8 | 31×24 | 11.9 | | |
| 22 | 1A8 | 35×31 | 17.1 | | |
| 59 | 1A7 | 40×32 | 23 | | |




2号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 1A12 | 50×43 | 26.5 | | |
| 33 | 1A12 | 42×41 | 26.4 | | |
| 34 | 1A12 | 46×43 | 32.6 | | |
| 76 | 1A18 | 50×46 | 18.4 | | |
| 80 | 1A17 | 41×36 | 25.8 | 土師器 | |
| 89 | 1A12 | 43×29 | 8.8 | | |
| 118 | 1A17 | 45×36 | 23.6 | | |

第17図　1・2号掘立柱建物

［出土遺物］P80より土師器が出土している。
［遺構時期］10世紀前半以前に所属すると思われる。
［備考］遺構時期は出土遺物からは把握できなかったが、7号竪穴住居との切り合い関係から判断した。

### 3号掘立柱建物

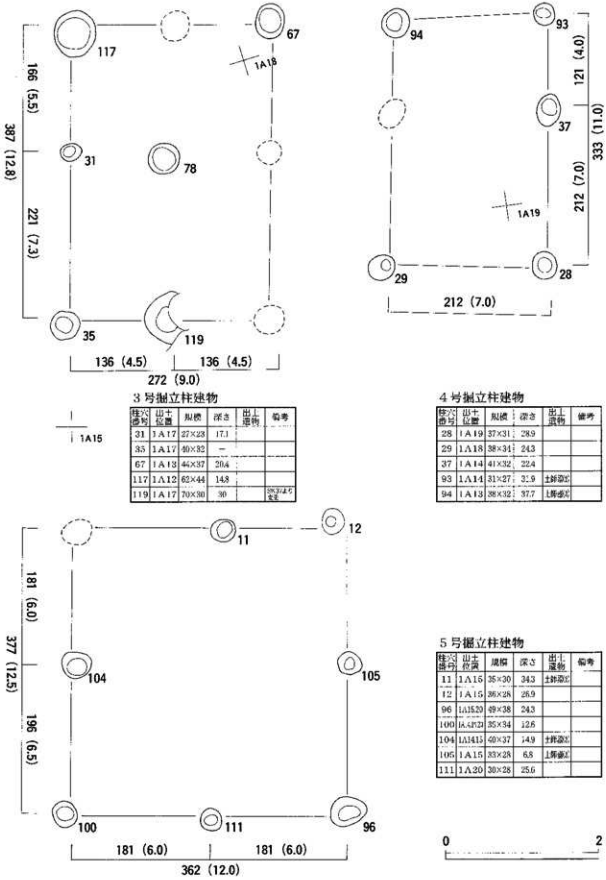
［位置］1A12・13・17・18グリッドに位置している。
［検出面］Ⅱ層。
［検出状況］P67・119は精査当初から柱穴として認識をしていたが、周辺にも多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。
［重複関係］2号掘立柱建物との新旧関係は不明である。
［平面形式］桁行3.87m×梁行2.72mで、長方形のプランを呈する。
［柱間寸法］5.5尺（1.66m）である。
［軸線方向］N－17°－E。
［出土遺物］なし。
［遺構時期］10世紀前半以前に所属すると思われる。
［備考］遺構時期は、2号掘立柱建物との関係から判断した。

### 4号掘立柱建物

［位置］1A13・14・18・19グリッドに位置している。
［検出面］Ⅱ層。
［検出状況］精査当初から柱穴として認識はしていたが、周辺にも多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。
［重複関係］所属時期不明の16号土坑と重複しており、本遺構の方が古い。
［平面形式］桁行3.33m×梁行2.12mで、長方形のプランを呈する。
［柱間寸法］7尺（2.12m）である。
［軸線方向］N－8°－E。
［出土遺物］P93・94で土師器が出土している。
［遺構時期］10世紀前半以前に所属するものと思われる。
［備考］遺構時期は土坑との切り合いや他の掘立柱建物と同じ黒土主体層であることから判断した。他の建物同様、1号溝より古いと考えられることから本建物を構成する柱穴は溝に切られている可能性がある。

### 5号掘立柱建物

［位置］1A15・20グリッドに位置している。
［検出面］Ⅱ層。
［検出状況］5号・6号竪穴住居の貼り床の掘り下げを終えた際に本遺構を構成する柱穴を検出したが、周辺に多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。
［重複関係］5号・6号竪穴住居と重複する。本遺構を構成する柱穴はそれら竪穴住居の貼り床の下から検




3号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 1A17 | 27×23 | 17.1 | | |
| 35 | 1A17 | 40×32 | — | | |
| 67 | 1A13 | 44×37 | 20.4 | | |
| 117 | 1A12 | 62×44 | 14.8 | | |
| 119 | 1A17 | 70×30 | 30 | 須恵器底部 | |

4号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 1A19 | 37×31 | 28.9 | | |
| 29 | 1A18 | 38×34 | 24.3 | | |
| 37 | 1A14 | 41×32 | 22.4 | | |
| 93 | 1A14 | 31×27 | 32.9 | 土師器底 | |
| 94 | 1A13 | 38×32 | 37.7 | 土師器底 | |

5号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 1A15 | 35×30 | 34.3 | 土師器底 | |
| 12 | 1A15 | 36×28 | 26.9 | | |
| 96 | 1A15 | 49×38 | 24.3 | | |
| 100 | 1A12 | 35×34 | 12.6 | | |
| 104 | 1A14 | 40×37 | 14.9 | 土師器底 | |
| 105 | 1A15 | 33×28 | 6.8 | 土師器底 | |
| 111 | 1A20 | 38×28 | 25.6 | | |

第18図　3～5号掘立柱建物

出されており、それらより古い。

［平面形式］桁行3.77m×梁行3.62mで、方形のプランを呈する。

［柱間寸法］6尺（1.96m）である。

［軸線方向］N－1°－E。

［出土遺物］P104・105で土師器が出土している。

［遺構時期］10世紀前半以前に所属するものと思われる。

［備考］遺構時期は柱穴より出土した土師器からは把握できなかったが、遺構の切り合い関係から判断した。

### 6号掘立柱建物

［位置］1A19・20グリッドに位置している。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］精査当初から本遺構を構成する柱穴の認識をしていたが、周辺に多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。

［重複関係］1号・2号溝と重複する。本遺構を構成する柱穴が溝に切られていることから、本遺構の方が古い。

［平面形式］桁行4.08m×梁行3.32mで、長方形のプランを呈する。

［柱間寸法］6尺（1.96m）である。

［軸線方向］N－7°－E。

［出土遺物］P41・54・88で土師器が出土している。

［遺構時期］10世紀前半以前に所属すると思われる。

［備考］遺構時期は柱穴より出土した土師器からは把握できなかったが、遺構の切り合い関係から判断した。

### 7号掘立柱建物

［位置］1A19・20グリッドに位置している。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］精査当初から本遺構を構成する柱穴としての認識をしていたが、周辺にも多数存在していたため調査段階では平面形式を把握できないでいた。整理後に本遺構として成立する。

［重複関係］1号・2号溝と重複する。本遺構を構成する遺構が溝に切られていることから、本遺構の方が古い。

［平面形式］桁行3.62m×梁行3.02mで、長方形のプランを呈する。

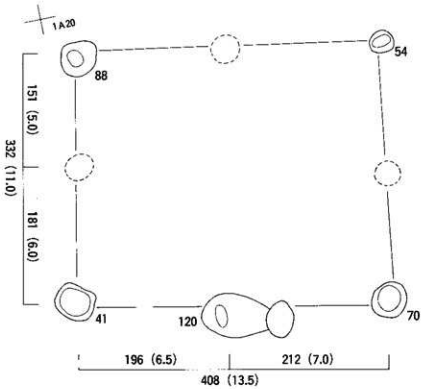
［柱間寸法］5.5尺（1.66m）である。

［軸線方向］N－7°－E。

［出土遺物］P25・42・90で土師器が出土している。

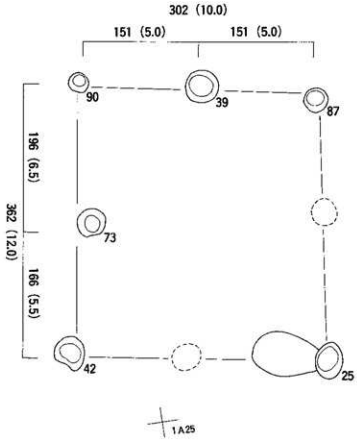
［遺構時期］10世紀前半以前に所属すると思われる。

［備考］遺構時期は柱穴より出土した土師器からは把握できなかったが、遺構の切り合い関係から判断した。




6号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 1A19 | 52×51 | 23.9 | 二層掘形 | |
| 54 | 1A20 | 33×31 | 17.2 | 一層掘形 | |
| 70 | 1A20 | 49×47 | 25.9 | 二層掘形 | |
| 88 | 1A20 | 52×50 | 25.7 | 一層掘形 | |
| 120 | 1A20 | 82×54 | 26.0 | | 1A-20ライン 25K |




7号掘立柱建物

| 柱穴番号 | 出土位置 | 規模 | 深さ | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 1A20 | 48×35 | - | 上層掘形 | |
| 73 | 1A20 | 40×38 | 24.7 | | |
| 39 | 1A20 | 44×43 | 9.9 | | |
| 87 | 1A20 | 35×33 | 19.1 | | |
| 42 | 1A19 | 45×40 | 18.3 | 上層掘形 | |
| 90 | 1A19 | 38×26 | 6.5 | 十層掘形 | |

0 2 m

第19図　6・7号掘立柱建物

### 3）溝

#### 1号溝

［位置］１Ａ・12・13・14・19・20、１Ｂ16・17・21・22グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］調査区西側から延びてくる本遺構の存在は精査当初から認識していた。しかし、１Ａ20・１Ｂ16グリッド付近で膨らみを見せることから、土坑と重複しているのか本遺構そのものに所属するかどうかが確認できないでいた。そのため、溝とその広がりを見せる部分にトレンチを入れ、新旧関係及びその性格の把握に務めた。その結果、本遺構に所属する溜井と捉え精査を進めた。

［重複関係］２号溝と重複している本遺構の溜井の部分を通るように断面を残し新旧関係を確認したが、本遺構は２号溝より新しい。また、７号竪穴住居や２・６・７号掘立柱建物とも重複するが、それらより新しい。

「規模］規模は溜井を境に異なるためそれぞれ記載しておく。

調査区西側から溜井までは、長さは17.12m、幅は0.89～1.41m・深さは0.45mである。

溜井の規模は、長さは4.31m、幅は2.46m・深さは0.61mである。

溜井から調査区東側は、長さは3.2m、幅は1.76～1.98m・深さは0.18～0.23mである。

［平面形］調査区外へ延びていくため不明な部分が多いが、確認できた本遺構の調査区西側から延びてくる上端と下端は、平行しほぼ真っ直ぐに延びている。調査区は溜井から東側はそれまでより若干幅は広がるが上端下端共に平行し真っ直ぐである。

［軸線方向］Ｎ－70°－Ｗ。

［埋土］調査区西側から溜井までは黒褐色シルト～粘土質シルトが主体で、３層に分層される。溜井は黒褐色粘土質シルト層主体で、10層に分層される。溜井から調査区東側にかけては２層に分層され、溜井の１・２層が対応する。

［出土遺物］土師器と須恵器の坏や甕などが本遺構の上層から底面にかけて出土している。もっとも多く出土したのは中層から底面にかけてである。土師器が1096点、須恵器が207点、中国産白磁が１点確認され出土量は多いものの、遺物の大半は磨滅している。48・49は土師器・坏で、内面に黒色処理とミガキが施されている。49は高台を有する。50・51は須恵器・坏、52～76は須恵器・甕である。77は中国産白磁と思われるが、器種は不明である。

［遺構時期］出土遺物から10世紀前半に所属する。

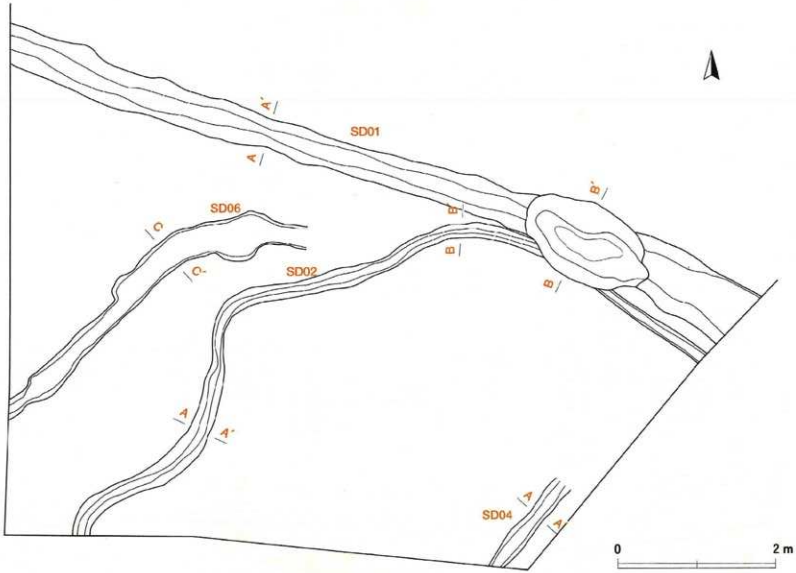
［備考］溜井を中心として西側と東側での標高差があり、東側の溝の方が浅い。これは西側から東側へ流れいたと考えられ、遺構の性格は用水路と思われる。

#### 2号溝

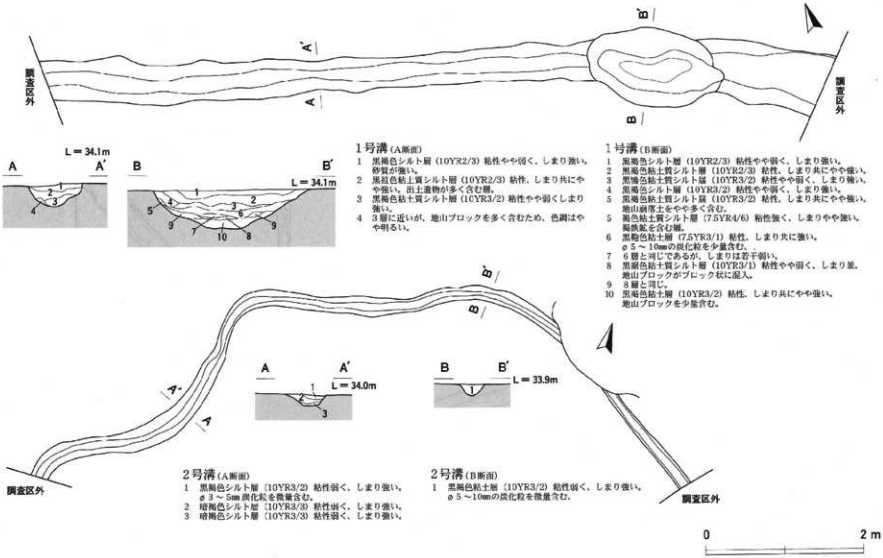
［位置］１Ａ18・19・20・23、１Ｂ21・22、２Ａ２グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］精査当初より１号溝と同様本遺構の東側部分は確認できてたが、１Ａ20グリッド付近において地山と埋土との区別ができないでいた。そのため調査区南側から延びてくる本遺構は３号溝とし別番号を付して行っていた。しかし埋土と地山の判別ができない箇所にサブトレンチを数本入れた結果、２号溝と３号溝は繋がり同一遺構となったため改めて精査を行った。




第20図　1・2・4・6号溝




**1号溝**（A断面）

1　黒褐色シルト層（10YR2/3）粘性やや弱く、しまり強い。砂質が強い。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性、しまり共にやや強い。出土遺物が多く含む層。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや弱くしまり強い。
4　3層に近いが、地山ブロックを多く含むため、色調はやや明るい。

**1号溝**（B断面）

1　黒褐色シルト層（10YR2/3）粘性やや弱く、しまり強い。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性、しまり共にやや強い。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり強い。
4　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり強い。
5　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。地山崩落土をやや多く含む。
5　褐色粘土質シルト層（7.5YR4/6）粘性強く、しまりやや強い。褐鉄鉱を含む層。
6　黒褐色粘土層（7.5YR3/1）粘性、しまり共に強い。φ5～10mmの炭化粒を少量含む。
7　6層と同じであるが、しまりは若干弱い。
8　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性やや弱く、しまり並。地山ブロックがブロック状に混入。
9　8層と同じ。
10　黒褐色粘土層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。地山ブロックを少量含む。

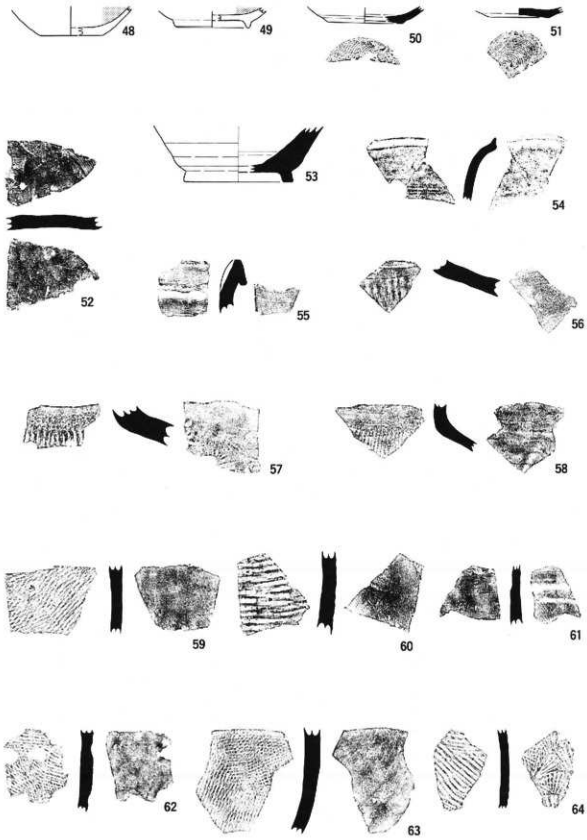
**2号溝**（A断面）

1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。φ3～5mm炭化粒を微量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性弱く、しまり強い。
3　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性弱く、しまり強い。

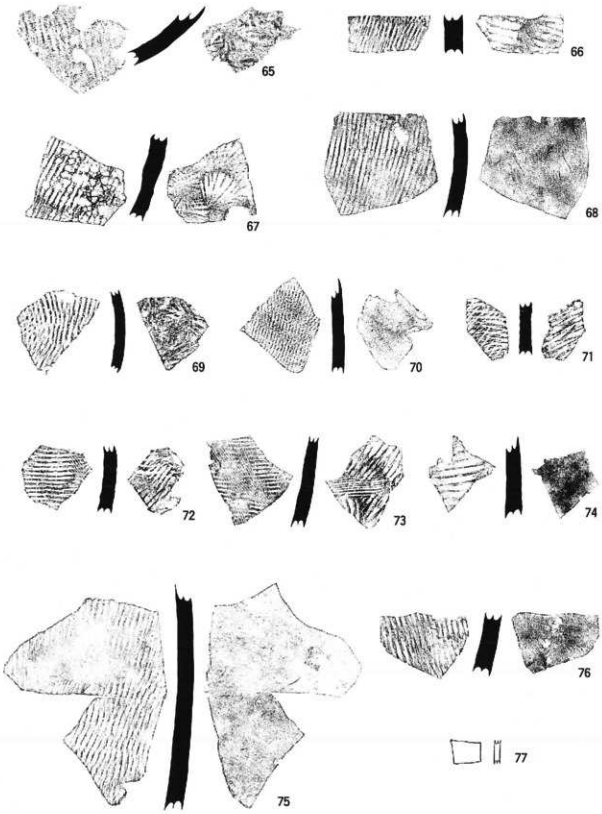
**2号溝**（B断面）

1　黒褐色粘土層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。φ5～10mmの炭化粒を微量含む。

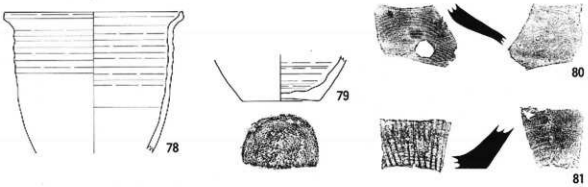
第21図　1・2号溝




第22図　1号溝出土遺物(1)




第23図　1号溝出土遺物(2)




**第24図　2号溝出土遺物**

［重複関係］1号溝の重複関係で先述した通りで、本遺構の方が古い。また、6・7号掘立柱建物と重複しているが本遺構の方が新しい。

［規模］長さは26.0m、幅は0.32～0.78m、深さは0.16～0.2mである。

［平面形］調査区外から延びてくるため不明な部分が多いが、確認できた上端と下端は、平行し延びている。

［軸線方向］調査区東側から1A19グリッドまでは1号溝と同じN－70°－Wという軸線方向を示しているが、そこから調査区南側（2A2グリッド）方向に蛇行しながら延びていく溝の軸線方向は、おおよそN－230°－Sである。

［埋土］断面観察は調査区中央と南側の2箇所で行った。中央では黒褐色粘土層主体で単層、南側では黒褐色シルト層主体で3層に分層される。

［出土遺物］土師器（83点）・須恵器（13点）の坏・甕の計96点が埋土中から出土している。78・79は土師器・甕、80・81は須恵器・甕である。

［遺構時期］10世紀前半以前に所属すると考えられる。

［備考］遺構時期は出土遺物からは捉えられなかったが、1号溝との重複関係から判断した。

### 4号溝

［位置］2A5、1B21グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］調査区外から延びてくるため不明な部分が多いが、1B21グリッドで終息するような状況で検出した。サブトレンチを入れた結果、削平され埋土が浅く底面のみの存在であることを確認し精査に入る。

［規模］長さは11.36m、幅は0.32～0.66m、深さは0.06mである。

［平面形］調査区南側から延びてくる上端と下端は、平行しほぼ真っ直ぐに延びている。

［軸線方向］N－42°－E。

［埋土］埋土は黒褐色シルト層主体で、単層である。

［出土遺物］出土遺物は土師器8点、須恵器3点、全て磨滅し図面掲載は不可能であった。

［遺構時期］不明である。

［備考］所属時期は遺物からは特定できないため不明としたが、9世紀後半～10世紀前半に所属する可能性がある。

### 6号溝

［位置］１A17・18・19・22、２A２グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［検出状況］調査区外から延びてきており、２号溝と平行しながら蛇行している。１号溝の手前の１A19グリッドで終息するような状況で検出した。サブトレンチを入れた結果、上部が削平され底面のみの存在であることを認識し精査に入る。

［重複関係］41号土坑とP51と重複し、41号土坑→本遺構→柱穴の順に新しくなる。

［規模］長さは3.44m、幅は0.22～0.72m、深さは0.07mである。

［平面形］調査区外から延び調査区内で終息するため、不明な点が多い。確認できた平面形は、若干上・下端共に膨らむがほぼ並行している。

［軸線方向］調査区外から１A18グリッドまでは、N－50°－Eの軸線方向を示しているが、１号溝の手前でそこから軸線はN－71°－Eへと変わる。

［埋土］黒褐色～灰褐色シルト層主体で、２層に分層される。

［出土遺物］土師器（59点）・須恵器（６点）の計65点出土している。大半が磨滅がしているため、図面掲載できたのは４点である。82は土師器・坏で、内面に黒色処理とミガキが施工されている。83は須恵器・坏で、84・85は甕である。

［遺構時期］９世紀後半～10世紀前半に所属する。

［備考］遺構時期は出土遺物からは判断できなかったが、土坑と柱穴の所属年代を平安時代としたことから判断している。

## 4）土坑

### １号土坑

［位置］１A13グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は0.8×0.75m、深さは0.29mである。平面形は不整円形を呈する。

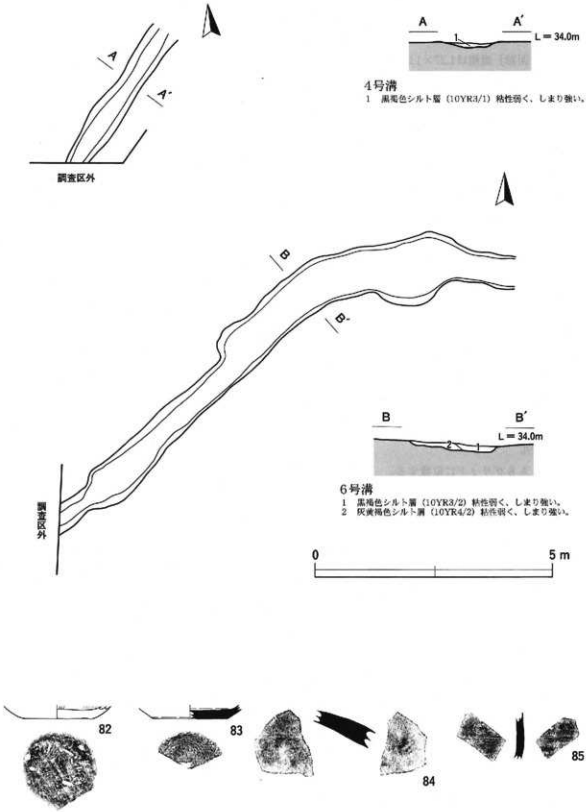
［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色～褐色粘土質シルト層を主体で、６層に分層される。

［出土遺物］土師器が34点出土している。大半が磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］10世紀前半に所属する。

［備考］１号竪穴住居と近接しており、同時期の遺物が出土している。上部が削平されているため直接切り合い関係を確認することができなかった。




第25図　4・6号溝、6号溝出土遺物

### 2号土坑

［位置］１A10グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［重複関係］３号・４号竪穴住居と重複しており、それらより新しい。

［規模・平面形］規模は1.27×1.24m、深さは0.39mである。平面形は円形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色粘土質シルト層主体で、５層に分層される。

［出土遺物］土師器が18点出土している。大半が磨滅しているため図面掲載できたのは１点で、86は土師器・坏である。

［遺構時期］10世紀前半に所属すると考えられる。

［備考］遺構時期は重複関係や出土遺物から判断している。

### 3号土坑

［位置］１A７グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は0.66×0.62m、深さは0.1mである。平面形は円形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒色～灰黄褐色粘土質シルト層主体で、２層に分層される。

［出土遺物］土師器が２点出土していが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］９～10世紀に所属すると考えられる。

### 4号土坑

［位置］１A８グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は1.09×0.46m、深さは0.13mである。平面形は不整楕円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒色～灰黄褐色粘土質シルト層主体で、２層に分層される。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］不明である。

### 5号土坑

［位置］１A13グリッドに位置する。

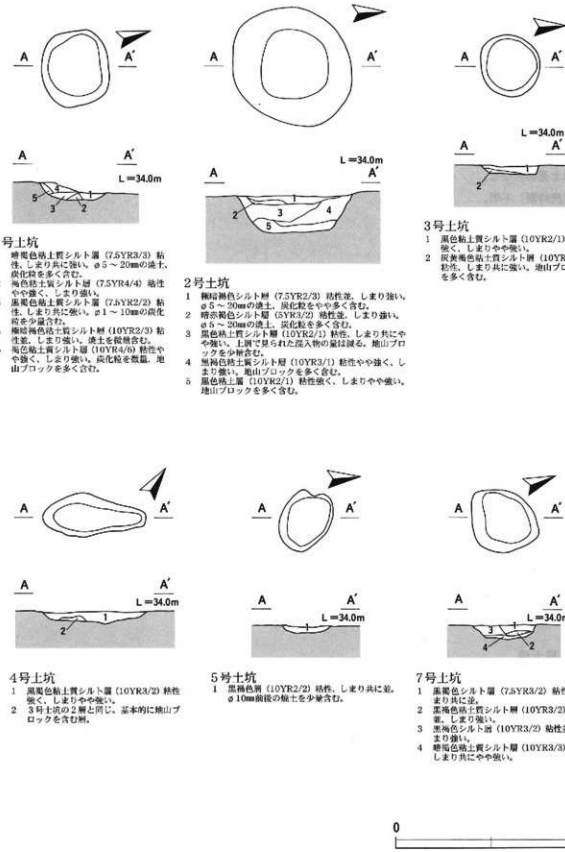
［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は0.66×0.52m、深さは0.06mである。平面形は不整円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルト層で、単層である。

［出土遺物］なし。




1号土坑

1　褐灰色粘土質シルト層（7.5YR3/3）粘性、しまり共に強い。φ5～20mmの焼土、炭化粒を多く含む。
2　褐色粘土質シルト層（7.5YR4/4）粘性やや強く、しまり強い。
3　黒褐色粘土質シルト層（7.5YR2/2）粘性、しまり共に強い。φ1～10mmの炭化粒を少量含む。
4　橙暗褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性並、しまり強い。焼土を微量含む。
5　褐色粘土質シルト層（10YR4/6）粘性やや強く、しまり強い。炭化粒を微量、地山ブロックを多く含む。

2号土坑

1　橙暗褐色シルト層（7.5YR2/3）粘性並、しまり強い。φ5～20mmの焼土、炭化粒をやや多く含む。
2　暗赤褐色シルト層（5YR3/2）粘性並、しまり強い。φ5～20mmの焼土、炭化粒を多く含む。
3　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性、しまり共にやや強い。上層で見られた混入物の量は減る。地山ブロックを少量含む。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性やや強く、しまり強い。地山ブロックを多く含む。
5　黒色粘土層（10YR2/1）粘性強く、しまりやや強い。地山ブロックを多く含む。

3号土坑

1　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性強く、しまりやや強い。
2　灰黄褐色粘土質シルト層（10YR4/2）粘性、しまり共に強い。地山ブロックを多く含む。

4号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性強く、しまりやや強い。
2　3号土坑の2層と同じ。基本的に地山ブロックを含む層。

5号土坑

1　黒褐色層（10YR2/2）粘性、しまり共に並。φ10mm前後の焼土を少量含む。

7号土坑

1　黒褐色シルト層（7.5YR3/2）粘性、しまり共に並。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性並、しまり強い。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまり強い。
4　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共にやや強い。

0　2 m

**第26図　1～7号土坑**

[遺構時期] 不明。

### 7号土坑

[位置] 1B11グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は0.82×0.66m、深さは0.14mである。平面形は不整円形を呈する。

[底面・壁] 底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒褐色シルト～粘土質シルト層主体で、4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[遺構時期] 不明。

### 8号土坑

[位置] 1B11グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は1.01×0.66m、深さは0.21mである。平面形は楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面は中央が皿状に若干窪んでおり、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒色～黒褐色粘土質シルト層が主体で、3層に分層される。埋土上位で炭化材が出土している。

[出土遺物] 土師器が13点出土しているが、全て磨滅しているため図面掲載は行っていない。

[遺構時期] 9～10世紀に所属すると考えられる。

### 10号土坑

[位置] 1B12グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は1.85×1.06m、深さは0.4mである。平面形は楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面は、中央は皿状に窪みその両脇は平坦面を形成している。壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒褐色粘土質シルト層が主体で、10層に分層される。

[出土遺物] 土師器が24点出土しているが、全て磨滅しているため図面掲載は行っていない。

[遺構時期] 9～10世紀に所属すると考えられる。

### 11号土坑

[位置] 1B12グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

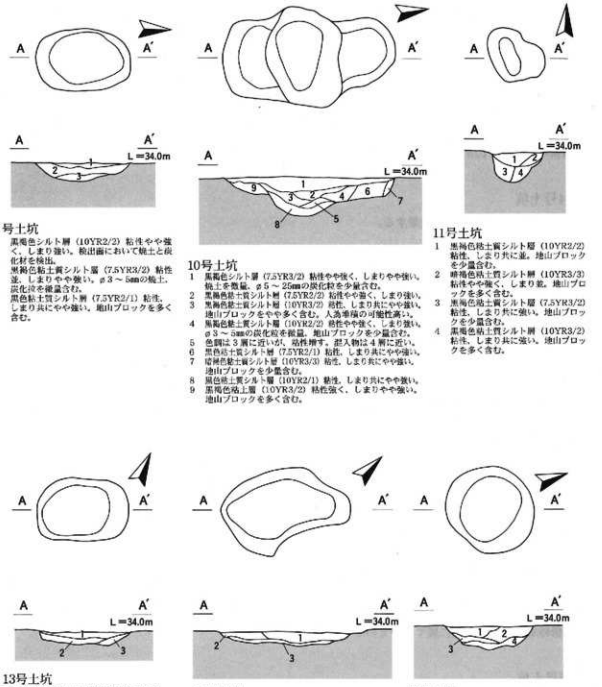
[規模・平面形] 規模は0.57×0.55m、深さは0.3mである。平面形は不整円形を呈する。

[底面・壁] 底面は中央が窪み、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒褐色粘土質シルト層が主体で、4層に分層される。

[出土遺物] なし。

[遺構時期] 不明。




8号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり強い。検出面において焼土と炭化材を検出。
2　黒褐色粘土質シルト層（7.5YR3/2）粘性並、しまりやや強い。φ3～5mmの焼土、炭化粒を微量含む。
3　黒色粘土質シルト層（7.5YR2/1）粘性、しまり共にやや強い。地山ブロックを多く含む。

10号土坑

1　黒褐色シルト層（7.5YR3/2）粘性やや強く、しまりやや強い。焼土を微量、φ5～25mmの炭化粒を少量含む。
2　黒褐色粘土質シルト層（7.5YR2/2）粘性やや弱く、しまり強い。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。地山ブロックをやや多く含む。人為堆積の可能性高い。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり強い。φ3～5mmの炭化粒を微量、地山ブロック多少量含む。
5　色調は3層に近いが、粘性堆下。泥入物は4層に近い。
6　黒色粘土質シルト層（7.5YR2/1）粘性、しまり共にやや強い。
7　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共にやや強い。地山ブロックを少量含む。
8　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性、しまり共にやや強い。
9　黒褐色砂土層（10YR3/2）粘性強く、しまりやや強い。地山ブロックを多く含む。

11号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性、しまり共に並。地山ブロックを少量含む。
2　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまり並。地山ブロックを多く含む。
3　黒褐色砂土質シルト層（7.5YR3/2）粘性、しまり共に強い。地山ブロックを少量含む。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に強い。地山ブロックを多く含む。

13号土坑

1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性並、しまりやや強い。φ5～20mmの炭化粒を微量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまり強い。地山ブロックを多く含む。
3　2層と同じだが、粘性が増す。

14号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり強い。φ3～5mmの焼土と炭化粒を少量含む。
2　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共にやや強い。1層と同じ混入物であるが、量が増す。
3　黒褐色粘土質シルト層（7.5YR3/2）粘性強く、しまりやや強い。φ5～10mmの焼土と炭化粒を少量含む。

15号土坑

1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共にやや強い。
2　暗褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に強い。
3　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共にやや強い。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性、しまり共に強い。地山ブロックを多く含む。

0　2 m

**第27図　8～15号土坑**

### 13号土坑

[位置] 1B12グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は0.96×0.67m、深さは0.13mである。平面形は楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 暗褐色シルト層が主体で、3層に分層される。

[出土遺物] 土師器が1点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

[遺構時期] 9～10世紀に所属するのものと思われる。

### 14号土坑

[位置] 1B12グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は1.37×0.93m、深さは0.16mである。平面形は不整楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒褐色粘土質シルト層が主体で、3層に分層される。底面で炭化粒と焼土が広がっているのを確認した。

[出土遺物] 土師器が27点、須恵器が1点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

[遺構時期] 9～10世紀に属するのものと考えられる。

[備考] 他の土坑と異なり底面一面に炭化粒が広がる状況から土坑墓の可能性がある。

### 15号土坑

[位置] 1A15グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は0.93×0.93m、深さは0.25mである。平面形は円形を呈する。

[底面・壁] 底面は中央が若干窪んでいるもののほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 暗褐色シルト～粘土質シルト層が主体で、4層に分層される。

[出土遺物] 土師器が14点出土しており、図示できた87は土師器・坏で、内面に黒色処理とミガキが施されている。

[遺構時期] 9～10世紀に属するのものと考えられる。

### 16号土坑

[位置] 1A14グリッドに位置する。

[検出面] Ⅱ層。

[規模・平面形] 規模は0.95×0.49m、深さは0.12mである。平面形は楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 暗褐色シルト層が主体で、2層に分層される。

[出土遺物] なし。

［遺構時期］不明。

### 17号土坑

［位置］１Ａ14グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は1.12×0.36m、深さは0.11mである。平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］暗褐色シルト層が主体で、４層に分層される。

［出土遺物］土師器が４点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］９～10世紀に属するものと思われる。

### 21号土坑

［位置］１Ａ20・25グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は1.49×1.23m、深さは0.21mである。平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルト層が主体で、５層に分層される。

［出土遺物］土師器24点、須恵器６点が出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］９～10世紀に属するものと思われる。

### 22号土坑

［位置］１Ａ25・２Ａ５グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［重複関係］33号土坑と重複しており、本遺構の方が新しい。

［規模・平面形］規模は0.86×0.59m、深さは0.13mである。平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルト層が主体で、２層に分層される。

［出土遺物］土師器が１点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］９～10世紀に属するものと思われる。

### 23号土坑

［位置］２Ａ３・４グリッドに位置する。

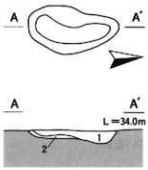
［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は1.08×0.57m、深さは0.13mである。平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

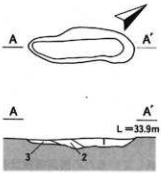
［埋土］黒～褐色シルト層主体で、３層に分層される。

［出土遺物］土師器が12点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。



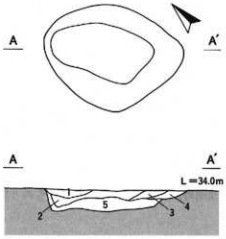

16号土坑

1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまり強い。
2　暗褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり強い。地山ブロックを少量含む。



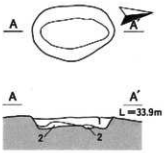

17号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまりやや強い。地山ブロックを少量含む。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性並、しまりやや強い。
3　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまりやや強い。



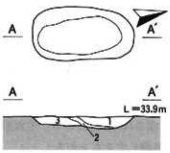

21号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。φ5～10mmの焼土と炭化粒を微量含む。
2　黒褐色シルト層（10YR3/1）粘性やや弱く、しまりやや強い。地山ブロックをやや多く含む。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり強い。
4　2層に類似。底径3～10mmの炭化粒を少量含む。
5　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性弱く、しまりやや強い。φ3～10mmの焼土と炭化粒を少量含む。



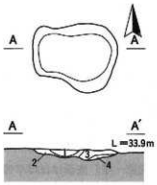

22号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性弱く、しまり強い。地山ブロックを少量含む。
2　褐色シルト層（10YR4/4）粘性弱く、しまりやや強い。地山ブロックをやや多く含む。



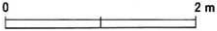

23号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性弱く、しまりやや強い。φ3～5mmの焼土と炭化粒を少量含む。
2　褐色シルト層（10YR4/6）粘性弱く、しまり強い。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。




24号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり強い。
2　22号土坑の2層と同じ。
3　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性弱く、しまり強い。
4　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性弱く、しまり強い。




第28図　16～24号土坑

［遺構時期］ 9～10世紀に属するものと思われる。

### 24号土坑

［位置］ 1A23・24グリッドに位置する。

［検出面］ Ⅱ層。

［規模・平面形］ 規模は0.89×0.73m、深さは0.11mである。平面形は不整楕円形を呈する。

［底面・壁］ 底面は部分的に窪みが見られる。壁は外傾しながら緩やかに立ち上がる。

［埋土］ 黒褐～暗褐色シルト層主体で、4層に分層される。

［出土遺物］ 土師器が2点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。

［遺構時期］ 9～10世紀に属するものと思われる。

### 25号土坑

［位置］ 1A20・1B16グリッドに位置する。

［検出面］ Ⅱ層。

［規模・平面形］ 規模は1.21×0.61m、深さは0.15mである。平面形は不整楕円形を呈する。

［底面・壁］ 底面はほぼ平坦で、壁は外傾しながら緩やかに立ち上がる。

［埋土］ 黒色シルト～黒褐色粘土質シルト層が主体で、3層に分層される。

［出土遺物］ 土師器19点、須恵器3点が底面から出土している。大半は磨滅しているため、掲載可能なのは88の須恵器・坏のみであった。

［遺構時期］ 10世紀前半に属する。

［備考］ 近接している5号竪穴住居内の第3竃土坑や26・27・28号土坑から同時期の遺物が出土していることやそれらと埋土主体層が同じことから、同時期に存在しているものと考えられる。

### 26号土坑

［位置］ 1A15・20、1B11・16グリッドに位置する。

［検出面］ Ⅱ層。

［規模・平面形］ 規模は0.94×0.75m、深さは0.15mである。平面形は円形を呈する。

［底面・壁］ 底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］ 黒色粘土質シルト層が主体で、2層に分層される。

［出土遺物］ 土師器27点、須恵器4点が底面から出土しているが、大半が磨滅しているため掲載できたのは、89～93の土師器・坏が5点、94の須恵器・坏、95の須恵器・甕のみである。

［遺構時期］ 10世紀前半に属する。

［備考］ 25号土坑の備考に記載したが、25・27・28号土坑と同時期のものと思われる。

### 27号土坑

［位置］ 1B11グリッドに位置する。

［検出面］ Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は1.00×0.82m、深さは0.13mである。平面形は円形を呈する。
［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
［埋土］黒色粘土質シルト層が主体で、2層に分層される。
［出土遺物］土師器24点が底面から出土していが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。
［遺構時期］10世紀前半に属する。
［備考］25号土坑の備考に記載したが、25・26・28号土坑と同時期のものと思われる。

### 28号土坑

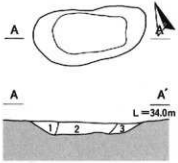
［位置］1B11グリッドに位置する。
［検出面］Ⅱ層。
［規模・平面形］規模は0.81×0.62m、深さは0.08mである。平面形は円形を呈する。
［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
［埋土］黒色～黒褐色粘土質シルト層が主体で、2層に分層される。
［出土遺物］須恵器が1点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。
［遺構時期］10世紀前半に属する。
［備考］25号土坑の備考に記載した通りである。25・26・27号土坑と同時期のものと考えられる。

### 33号土坑

［位置］1A25グリッドに位置する。
［検出面］Ⅱ層。
［重複関係］22号土坑と重複しているが、本遺構の方が古い。
［規模・平面形］規模は0.81×0.56m、深さは0.16mである。平面形は楕円形を呈する。
［底面・壁］底面は中央が皿状に窪み、壁は緩やかに立ち上がる。
［埋土］黒色～黒褐色粘土質シルトが主体で、2層に分層される。
［出土遺物］土師器が10点出土しているが、大半が磨滅しているため図面掲載は行っていない。
［遺構時期］9～10世紀に属するものと思われる。

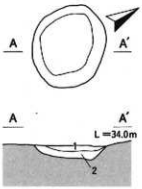
### 34号土坑

［位置］2A5グリッドに位置する。
［検出面］Ⅱ層。
［規模・平面形］規模は0.941×0.56m、深さは0.16mである。平面形は楕円形を呈する。
［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
［埋土］黒色～黒褐色粘土質シルトが主体で、3層に分層される。
［出土遺物］土師器が26点出土しているが、大半が磨滅しているため図面掲載は行っていない。
［遺構時期］9～10世紀に属するものと思われる。



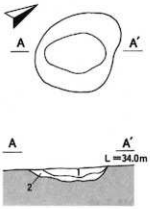

25号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり強い。φ3～5mmの焼土と炭化粒を微量含む。
2　黒色シルト層(10YR2/1)粘性弱く、しまりやや強い。φ3～5mmの焼土と炭化粒を含む。
3　黒褐色シルト層（10YR3/1）粘性やや弱く、しまり強い。φ3～5mmの焼土、炭化粒を微量含む。地山ブロックを少量含む。



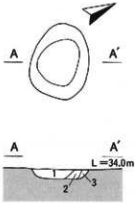

26号土坑

1　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性、しまり共に弱。φ5～10mmの焼土と炭化粒を少量含む。
2　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性やや強く、しまり並。φ5～10mmの焼土、炭化粒を微量含む。



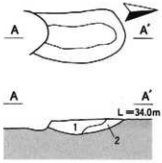

27号土坑

1　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性やや強く、しまり並。φ3～5mmの焼土、φ1～20mmの炭化粒を少量含む。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまり並。混入物は減り、しまり増す。



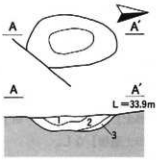

28号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性やや強く、しまり並。φ3～5mmの焼土、炭化粒を少量含む。
2　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性、しまり共に並。1層と同様の混入物で、地山ブロックを少量含む。
3　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性並、しまりやや強い。



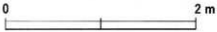

33号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性並、しまりやや強い。φ3～5mmの炭化粒を少量含む。
2　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性並、しまりやや強い。φ3～10mmの焼土、炭化粒を少量含む。




34号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性並、しまり強い。φ3～20mmの焼土を並、φ3～5mmの炭化粒を微量含む。
2　黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性並、しまりやや強い。上層に比べ混入物が増し、特に炭化粒の量は多くなる。
3　2層と類似した層だが、混入物は減る。地山ブロックをやや多く含む。




第29図　25～34号土坑

### 35号土坑

［位置］１Ａ23・24グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は0.54×0.46m、深さは0.11mである。平面形は円形を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

［埋土］黒褐色粘土質シルトが主体で、単層である。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］不明。

### 39号土坑

［位置］１Ａ23グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［規模・平面形］規模は0.97×0.46m、深さは0.08mである。平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルトが主体で、２層に分層される。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］不明。

### 40号土坑

［位置］１Ａ12グリッドに位置する。

［検出面］Ⅱ層。

［重複関係］７号竪穴住居を精査中に同遺構と重複し、７号竪穴住居より古い。

［規模・平面形］規模は0.62×0.61m、深さは0.27mである。平面形は円形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルト～粘土質シルト層が主体で、４層に分層される。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］10世紀前半以前である。

［備考］今回は土坑と報告したが、検出位置や規模・平面プランから掘立柱建物を構成する柱穴の可能性も考えられる。

### 41号土坑

［位置］１Ａ18グリッドに位置する。

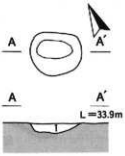
［検出面］Ⅱ層。

［重複関係］６号溝と重複するが、本遺構の方が古い。

［規模・平面形］規模は1.89×1.08m、深さは0.33mである。平面形は楕円形を呈する。

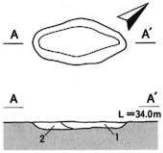
［底面・壁］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルトが主体で、５層に分層される。



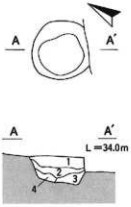

35号土坑

1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり並。地山ブロックを少量含む。



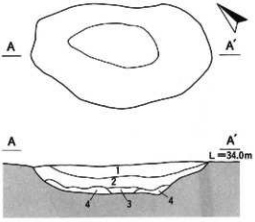

39号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR2/3）粘性やや弱く、しまりやや強い。
2　黒褐色シルト層（10YR2/2）地山ブロックを少量含む。




40号土坑

1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性弱く、しまりやや強い。
2　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまりやや強い。
3　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性並、しまりやや強い。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/3）粘性、しまり共にやや強い。

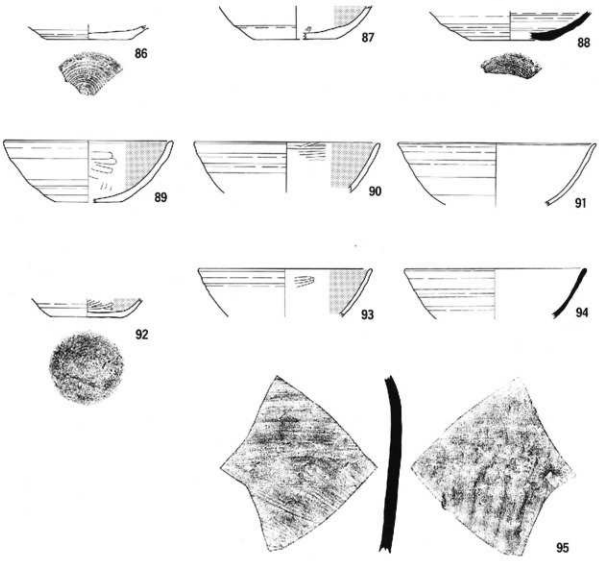



41号土坑

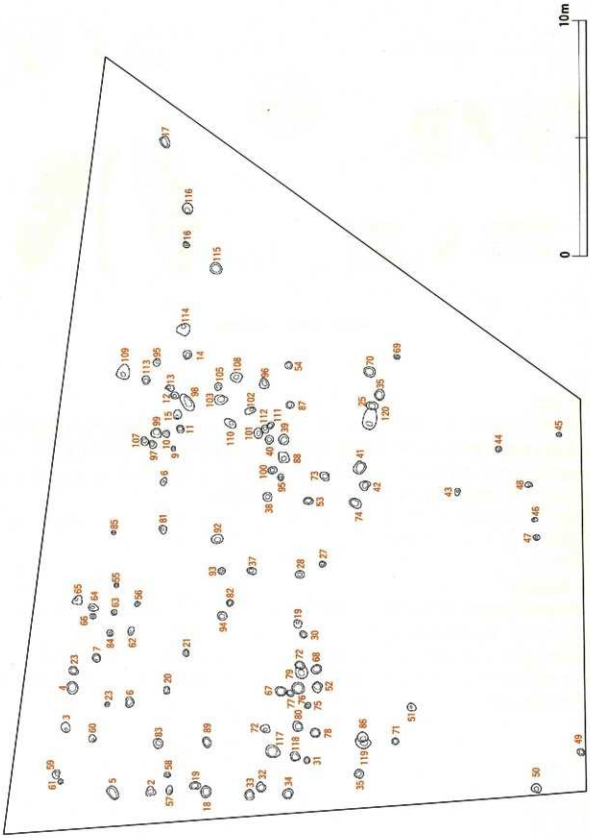
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。地山ブロックを少量含む。
2　1層類似、しまり弱す。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。
4　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまりやや強い。

**第30図　35～41号土坑**

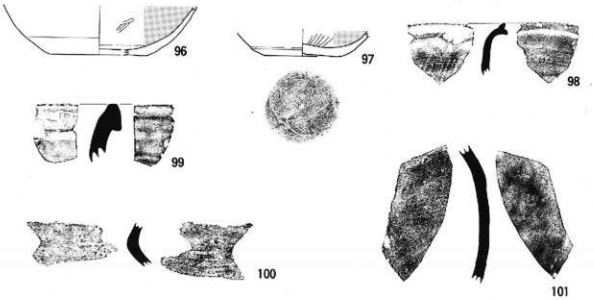
［出土遺物］土師器が1点出土しているが、磨滅しているため図面掲載は行っていない。
［遺構時期］9世紀後半～10世紀前半に属する。
［備考］遺構時期は6号溝より古いことから判断している。




第31図　2・15・25・26号土坑出土遺物




第32図　柱穴配置図




第33図　遺構外・表採遺物

5）柱穴

柱穴は総数118基あり、掘立柱建物を構成する柱穴を除くと79基検出された。遺構時期は埋土主体層及びそれらに伴う遺物から判断しているが、時期不明の13基以外の66基は平安時代に属すると思われる。また、平安時代の掘立柱建物に構成されるような柱穴は、１Ａの７～10・12～15・17～20グリッド付近に多く存在していたが、今回は建物を構成するまでに至らなかったものが多数ある。

また、掘立柱建物を検討する際には、柱穴の多くが１号溝によって切られていることから、本来ならばさらに多くの柱穴が存在していた可能性があるものと思われる。

3. 出土遺物

遺構検出面上面を削平されていたものの遺構検出を行っている際に、出土した遺物は10世紀前半を主体とするものである。96～101はそれらに該当する。

概観でも先述したように溝や土坑などの複数の遺構から縄文時代の遺物と思われるものが確認された。それらの遺物の内訳は石匙１点、剥片７点、有孔石器１点である。しかし、今回の調査ではこれらの遺物を伴う時期の遺構は検出されなかった。このことから周辺に当該期の遺跡が存在しているものと考えられる。

# 第Ⅴ章　まとめ

今回の調査成果として、竪穴住居７棟、掘立柱建物７棟、溝４条、土坑30基、柱穴79基が検出された。

先述した遺構の中で、平安時代に属するものとして竪穴住居７棟、掘立柱建物７棟、溝４条、土坑21基、柱穴66基であった。後世に削平を受けていたが、各遺構の密度は高く小規模なものの集落であることが確認された。これらの遺構は、出土遺物から掘立柱建物から竪穴住居への変遷を捉えることができた。以下に年代を把握できた順から説明を行う。

まず竪穴住居や溝、土坑から出土した土師器や須恵器・坏は、10世紀前半に所属するものが主体を成していることが確認できた（高橋1982、八木1992）。このことからその時期には竪穴住居や溝を中心とした集落が成立していたものと考えられる。その集落の中で竪穴住居と溝との位置関係から、１号溝の溜井の近くに竪穴住居が比較的密集していることが窺える。このことは人と水場との関係を密接に示唆するものと思われ、計画的に集落が形成されていると考えられる。

次に、掘立柱建物群が形成されているが、出土遺物が少なく遺構時期を特定できなかった。しかしそれらは竪穴住居や溝を中心とした集落に切られていたことを確認した。これらの時期は10世紀前半以前としか判断できないが、掘立柱建物の平面プランから９世紀後半から10世紀にかけて所属するものと位置付けることが妥当かと思われる。

上述のように本遺跡は、９世紀後半から10世紀にかけての掘立柱建物を中心とした集落から10世紀前半の竪穴住居を中心とした集落への変遷が捉えられる。さらに言及していくと９世紀後半から10世紀初頭にかけての掘立柱建物は自然村落的な要素が強く、10世紀前半の竪穴住居を中心とした集落は、１号溝の溜井と周辺の竪穴住居との配置から併せて検討していくと計画的な村落形態の様相を示していると考えられる。このことから本遺跡が存在していた微高地上は面積は狭いものの、９世紀後半から10世紀前半を通じて利用されており、集落を形成する上で適した立地をしていたものと思われる。

今回は小面積の発掘調査ではあったものの、上述したような成果が得られた。しかし、削平を受けた結果、このようなまとめに留まらざるを得ない状態になったのは極めて残念である。今後、本遺跡の周辺の当該期の類例の増加を待ち、これらの様相が明らかになることを期待したい。

［参考文献］


伊藤博幸 1997「律令村落の基礎構造－胆沢城周辺の平安集落－」『岩手史学研究』80

伊藤博幸 1980「胆沢城と古代集落－自然村落と計画村落－」『日本史研究』215

伊藤博幸 1998「岩手県の治水・利水について」「治水・利水遺跡を考える」第７回東日本埋蔵文化財研究会

伊藤博幸 1990「陸奥国における黒色土師器－その展開と終焉」『東国土器研究』第３号

高橋信雄 1982「古代」『第３の土器』岩手県立博物館

八木光則 1992「古代新和器と鐙瓦体の土器様相」第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料集

| 柱穴番号 | 出土位置 | 形　状 | 長軸×短軸(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1A7 | 円 | 39 × 35 | 13.4 | | 平安 | SB01 |
| 2 | 1A7 | 不整円形 | 42 × 39 | 34.4 | | 平安 | SB01 |
| 3 | 1A7 | 円 | 42 × 30 | − | | 平安 | SB01 |
| 4 | 1A8 | 円 | 47 × 45 | 10.8 | | 平安 | |
| 5 | 1A7 | 楕円 | 60 × 40 | 6.7 | | 平安 | |
| 6 | 1A8 | 楕円 | 44 × 35 | 6.5 | | 平安 | |
| 7 | 1A8 | 円 | 34 × 34 | 8.2 | | 平安 | |
| 8 | 1A14 | 楕円 | 44 × 26 | 27.6 | | 平安 | |
| 9 | 1A15 | 不整方形 | 24 × 18 | 26.9 | | 平安 | |
| 10 | 1A15 | 円 | 34 × 28 | 38.6 | | 平安 | |
| 11 | 1A15 | 円 | 35 × 30 | 34.3 | 土師器(2) | 平安 | SB05 |
| 12 | 1A15 | 楕円 | 36 × 28 | 26.9 | | 平安 | SB05 |
| 13 | 1A15 | 不整方形 | 34 × 27 | − | | 平安 | |
| 14 | 1A15.1B11 | 不整方形 | 42 × 35 | 32.2 | | 平安 | |
| 15 | 1A15 | 楕円 | 41 × 35 | − | 土師器(4) | 平安 | |
| 16 | 2A11 | 円 | 26 × 25 | 29.3 | 土師器(1) | 平安 | |
| 17 | 1B12 | 不整方形 | 50 × 35 | − | | 平安 | |
| 18 | 1A12 | 楕円 | 50 × 43 | 26.5 | | 平安 | SB02 |
| 19 | 1A12 | 楕円 | 43 × 32 | 19.0 | | 平安 | |
| 20 | 1A8 | 楕円 | 31 × 24 | 12.0 | | 平安 | SB01 |
| 21 | 1A13 | 隅丸 | 25 × 25 | 29.0 | | 平安 | |
| 22 | 1A8 | 円 | 35 × 31 | 17.4 | | 平安 | SB01 |
| 23 | 1A8 | 円 | 20 × 20 | 21.1 | | 平安 | |
| 24 | 1A20.25 | 円 | 48 × 38 | − | 土師器(1) | 平安 | |
| 25 | 1A20 | 楕円 | 48 × 35 | − | 土師器(2) | 平安 | SB07 |
| 26 | − | − | − | − | | − | |
| 27 | 1A19 | 円 | 25 × 23 | 14.1 | 土師器(1) | 平安 | |
| 28 | 1A19 | 円 | 37 × 31 | 28.9 | | 平安 | SB04 |
| 29 | 1A18 | 円 | 38 × 34 | 24.3 | | 平安 | SB04 |
| 30 | 1A18 | 円 | 30 × 25 | 6.6 | | 平安 | |
| 31 | 1A17 | 円 | 27 × 23 | 17.2 | | 平安 | SB03 |
| 32 | 1A12 | 円 | 39 × 38 | 34.3 | | 平安 | |
| 33 | 1A12 | 円 | 42 × 41 | 26.4 | | 平安 | SB02 |
| 34 | 1A12 | 円 | 46 × 43 | 32.6 | | 平安 | SB02 |
| 35 | 1A17 | 円 | 40 × 32 | − | | 平安 | SB03 |
| 36 | − | − | − | | − | | |
| 37 | 1A14 | 楕円 | 41 × 32 | 22.4 | | 平安 | SB04 |
| 38 | 1A14 | 円 | 38 × 37 | 19.5 | 土師器(1) | 平安 | |
| 39 | 1A20 | 円 | 44 × 43 | 10.0 | | 平安 | SB07 |
| 40 | 1A15.20 | 隅丸 | 35 × 34 | 8.3 | | 平安 | |
| 41 | 1A19 | 不整方形 | 52 × 51 | 24.0 | 土師器(7) | 平安 | SB06 |
| 42 | 1A19 | 不整円形 | 45 × 40 | 18.4 | 土師器(3) | 平安 | SB07 |
| 43 | 1A24 | 楕円 | 29 × 23 | 13.0 | 土師器(3) | 平安 | |
| 44 | 1A24.25 | 円 | 25 × 23 | 15.9 | | 不明 | |
| 45 | 2A5 | 円 | 19 × 18 | 11.5 | | 不明 | |
| 46 | 2A4 | 楕円 | 28 × 21 | 11.7 | | 不明 | |
| 47 | 2A4 | 隅丸 | 27 × 24 | 7.4 | | 不明 | |
| 48 | 2A4 | 楕円 | 29 × 22 | 13.4 | 土師器(3) | 平安 | |
| 49 | 2A2 | 円 | 30 × 29 | 5.5 | | 不明 | |
| 50 | 1A22.2A2 | 円 | 42 × 39 | 35.0 | | 不明 | |
| 51 | 1A22 | 楕円 | 35 × 27 | 24.0 | | 平安 | |
| 52 | 1A18 | 円 | 43 × 41 | 23.5 | 土師器(1) | 平安 | |
| 53 | 1A19 | 楕円 | 36 × 32 | 11.7 | 土師器(1) | 平安 | |
| 54 | 1A20 | 円 | 33 × 31 | 17.2 | 土師器(3) | 平安 | SB06 |
| 55 | 1A9 | 円 | 22 × 21 | 18.1 | | 不明 | |
| 56 | 1A8 | 楕円 | 26 × 24 | 8.8 | | 不明 | |
| 57 | 1A7 | 楕円 | 38 × 26 | 13.4 | | 平安 | |
| 58 | 1A7 | 円 | 25 × 25 | 13.8 | | 平安 | |
| 59 | 1A7 | 楕円 | 40 × 32 | 23.0 | | 平安 | SB01 |
| 60 | 1A7 | 不整円形 | 35 × 31 | 23.1 | | 平安 | |

**第3表　柱穴計測表(1)**

| 柱穴番号 | 出土位置 | 形　状 | 長軸×短軸(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 1A7 | 円 | 20 × 17 | 11.7 | | 平安 | |
| 62 | 1A8 | 楕円 | 40 × 22 | 31.6 | | 不明 | |
| 63 | 1A8 | 不整円形 | 21 × 23 | 13.0 | | 不明 | |
| 64 | 1A8 | 楕円 | 44 × 32 | 23.7 | | 不明 | |
| 65 | 1A8.9 | 不整方形 | 49 × 38 | 34.0 | | 不明 | |
| 66 | 1A8 | 円 | 24 × 22 | 17.6 | | 不明 | |
| 67 | 1A13 | 楕円 | 44 × 37 | 20.5 | | 平安 | SB03 |
| 68 | 1A18 | 円 | 45 × 38 | 6.6 | | 平安 | |
| 69 | 1A25 | 楕円 | 27 × 19 | 10.0 | | 平安 | |
| 70 | 1A20 | 円 | 49 × 47 | 25.9 | 土師器(5) | 平安 | SB06 |
| 71 | 1A17 | 隅丸 | 27 × 26 | 30.3 | 土師器(5) | 平安 | |
| 72 | 1A18 | 楕円 | 38 × 30 | 34.0 | | 平安 | |
| 73 | 1A20 | 円 | 40 × 38 | 24.8 | | 平安 | SB07 |
| 74 | 1A20 | 楕円 | 53 × 35 | 18.2 | | 平安 | |
| 75 | 1A17 | 円 | 22 × 22 | 19.1 | | 平安 | |
| 76 | 1A18 | 円 | 50 × 46 | 18.5 | | 平安 | SB02 |
| 77 | 1A13.18 | 楕円 | 33 × 26 | 10.7 | | 平安 | |
| 78 | 1A17 | 円 | 41 × 38 | 35.8 | | 平安 | |
| 79 | 1A18 | 楕円 | 62 × 50 | 33.6 | | 平安 | |
| 80 | 1A17 | 隅丸 | 41 × 36 | 25.8 | 土師器(2) | 平安 | SB02 |
| 81 | 1A14 | 不整方形 | 38 × 28 | 21.7 | | 平安 | |
| 82 | 1A13 | 円 | 28 × 28 | 11.6 | | 平安 | |
| 83 | 1A7 | 円 | 27 × 24 | 14.0 | | 平安 | |
| 84 | 1A8 | 円 | 29 × 28 | 25.8 | | 不明 | |
| 85 | 1A9 | 隅丸 | 19 × 16 | 11.0 | | 不明 | |
| 86 | 1A17 | 円 | 50 × 42 | 39.8 | | 平安 | |
| 87 | 1A20 | 円 | 35 × 33 | 19.1 | | 平安 | SB07 |
| 88 | 1A20 | 隅丸 | 52 × 50 | 25.8 | 土師器(3) | 平安 | SB06 |
| 89 | 1A12 | 楕円 | 42 × 29 | 8.9 | | 平安 | SB02 |
| 90 | 1A19 | 隅丸 | 28 × 26 | 6.5 | 土師器(1) | 平安 | SB07 |
| 91 | 1A20.25 | 楕円 | 40 × 21 | 17.8 | 土師器(1) | 平安 | |
| 92 | 1A14 | 楕円 | 49 × 39 | 27.0 | | 平安 | |
| 93 | 1A14 | 円 | 31 × 27 | 31.9 | 土師器(2) | 平安 | SB04 |
| 94 | 1A13 | 楕円 | 38 × 32 | 37.7 | 土師器(3) | 平安 | SB04 |
| 95 | 1A15 | 円 | 34 × 30 | 35.7 | | 平安 | |
| 96 | 1A15.20 | 隅丸 | 49 × 38 | 24.4 | | 平安 | SB05 |
| 97 | 1A15 | 不整円形 | 37 × 34 | 18.8 | | 平安 | |
| 98 | 1A15 | 不整方形 | 85 × 49 | 25.4 | 土師器(2) | 平安 | |
| 99 | 1A15 | 不整円形 | 47 × 44 | 11.7 | | 平安 | |
| 100 | 1A14.19.20 | 円 | 35 × 34 | 12.6 | | 平安 | SB05 |
| 101 | 1A15 | 楕円 | 42 × 35 | 32.1 | 土師器(5) | 平安 | |
| 102 | 1A15 | 楕円 | 47 × 25 | 27.6 | 土師器(1) | 平安 | |
| 103 | 1A15 | 不整方形 | 52 × 40 | 13.1 | | 平安 | |
| 104 | 1A14.15 | 不整円形 | 40 × 37 | 15.0 | 土師器(3) | 平安 | SB05 |
| 105 | 1A15 | 楕円 | 33 × 28 | 6.9 | 土師器(3) | 平安 | SB05 |
| 106 | 1A15 | 楕円 | 30 × 28 | 24.4 | 土師器(1) | 平安 | |
| 107 | 1A10 | 円 | 38 × 32 | 27.2 | | 平安 | |
| 108 | 1A15 | 隅丸 | 48 × 40 | 35.7 | | 平安 | |
| 109 | 1A10 | 不整方形 | 65 × 55 | 22.3 | | 平安 | |
| 110 | 1A15 | 楕円 | 53 × 37 | 17.4 | | 平安 | |
| 111 | 1A20 | 円 | 30 × 28 | 25.6 | | 平安 | SB05 |
| 112 | 1A15 | 楕円 | 37 × 28 | 27.7 | | 平安 | |
| 113 | 1A15 | 楕円 | 35 × 30 | 34.6 | | 平安 | |
| 114 | 2A11 | 不整方形 | 60 × 54 | 25.3 | | 平安 | |
| 115 | 2A11 | 円 | 49 × 47 | 18.4 | | 平安 | |
| 116 | 2A12 | 不整方形 | 70 × 50 | 46.5 | | 平安 | |
| 117 | 1A12 | 円 | 62 × 44 | 14.9 | | 平安 | SB03 |
| 118 | 1A17 | 不整円形 | 45 × 36 | 23.6 | | 平安 | SB02 |
| 119 | 1A17 | 不整円形 | 70 × 30 | 30.0 | | 平安 | SB03 |
| 120 | 1A20 | 楕円 | 82 × 54 | 26.0 | | 平安 | SB06 |

**第4表　柱穴計測表(2)**

| 遺物No | 登録No | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存 | 色調 | 胎土 | 内面 | 外面 | 底面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 土師器 | 坏 | 口縁～底部 | SI01埋土 | 13.1 | 5.7 | 5.4 | 2/3 | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | ヘラ切り・ヘラケズリ | |
| 2 | 2 | 土師器 | 坏 | 口縁～底部 | SI01床直 | (11.8) | (5.6) | 4.4 | 1/3 | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | 指ナデ・ヘラケズリ | ヘラ切り・ヘラケズリ | |
| 3 | 3 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SI01床直 | | (6.8) | (3.5) | 1/4 | にぶい黄橙 | 細砂少・粗砂多 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 4 | 4 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SI01床直 | (14.4) | (5.6) | 4.0 | 1/3 | 黄灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 5 | 5 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SI01埋土 | (13.6) | (6.2) | 4.1 | 1/3 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 6 | 8 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SI01埋土 | (13.8) | (6.0) | (3.05) | 1/8 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 7 | 7 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SI01埋土 | - | (5.7) | (1.4) | 1/4 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 8 | 6 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SI01埋土 | - | (6.0) | (1.9) | 1/3 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 9 | 9 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI01床直 | (23.0) | - | (11.2) | 1/4 | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ・ヘラナデ | ロクロナデ・ヘラナデ | | |
| 10 | 11 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SI01埋土 | - | - | (5.4) | - | 灰褐 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ・ヘラケズリ | ロクロ | - | |
| 11 | 12 | 須恵器 | 壺 | 頸～体部 | SI01床直 | | - | (2.3) | - | 灰褐 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ・ヘラケズリ | ロクロ | - | |
| 12 | 10 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SI01床直 | - | - | (5.2) | - | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ・ヘラケズリ | ロクロ | - | |
| 13 | 16 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SI03貼り床 | (13.6) | 6.0 | 4.45 | 1/4 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 14 | 13 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI03貼り床 | (22.4) | - | (7.0) | - | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ・ヘラケズリ | ロクロ | - | |
| 15 | 14 | 土師器 | 甕 | 体～底部 | SI03貼り床 | - | (7.8) | (5.35) | 1/4 | 明黄褐 | 細砂少・粗砂多 | ナデ・ヘラケズリ | ナデ | | |
| 16 | 15 | 須恵器 | 壺 | 口縁～頸部 | SI01床直 | (12.4) | - | (3.4) | 1/4 | 暗灰黄 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | - | - | |
| 17 | 18 | 須恵器 | 坏 | 口縁～体部 | SI04貼り床 | (11.9) | | (3.45) | 1/8 | 青灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | |
| 18 | 17 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SI04貼り床 | - | 7.4 | (2.3) | 1/4 | 青灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 19 | 19 | 須恵器 | 甕 | 口縁～体部 | SI04埋土 | - | - | (5.7) | - | 青灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | - | |
| 20 | 20 | 土師器 | 坏 | 口縁～底部 | SI05貼り床 | (13.8) | (6.2) | (3.0) | 2/3 | 明黄褐 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 切り離し不明・再調整 | |
| 21 | 92 | 土師器 | 坏 | 口縁～底部 | SI05貼り床 | (11.6) | (6.0) | 4.5 | 1/6 | にぶい黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り・再調整 | |
| 22 | 23 | 土師器 | 坏 | 口縁～体部 | SI05上坑内 | (13.6) | - | (3.8) | 1/4 | 橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | - | |
| 23 | 24 | 土師器 | 坏 | 口縁～体部 | SI05上坑内 | (14.6) | - | (4.2) | 1/4 | 橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | - | |
| 24 | 21 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SI05上坑内 | - | (5.8) | (1.4) | 1/3 | にぶい橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り・再調整 | |
| 25 | 33 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SI05貼り床 | - | (8.0) | (2.65) | 1/4 | 浅黄橙 | 細砂少・粗砂多 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | ? | |
| 26 | 25 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SK26床直 | 14.5 | 6.25 | 5.05 | 2/3 | | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ヘラケズリ | 切り離し不明・再調整 | |
| 27 | 26 | 須恵器 | 坏 | 口縁～底部 | SI05貼り床 | (14.9) | (5.4) | 4.9 | 1/3 | 灰白 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ヘラケズリ | 回転糸切り | |
| 28 | 22 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SI05貼り床 | - | (6.2) | (0.8) | 2/3 | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 29 | 27 | 須恵器 | 甕 | 体～底部 | SI05床直 | - | 8.0 | (3.0) | - | 緑灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ヘラケズリ | ヘラ切り・再調整 | |
| 30 | 85 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI05土坑内 | (19.8) | - | (7.9) | 1/8 | 黄橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | |
| 31 | 29 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI05床直 | 18.8 | - | (6.85) | 1/8 | 褐 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | |
| 32 | 28 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI05床直 | (20.0) | - | (7.5) | 1/8 | 明黄褐 | 細砂少・粗砂多 | ナデ | ナデ | - | |
| 33 | 30 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | SI05床直 | 29.0 | - | (6.5) | 1/8 | 灰白 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 34 | 32 | 土師器 | 甕 | 体～底部 | SI05上坑内 | | 7.0 | 7.6 | 1/3 | 浅黄橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |

第5表　遺物観察表(1)

| 図版 | 遺物 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存 | 色調 | 胎土 | 内面 | 外面 | 底面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 31 | 土師器 | 甕 | 体部 | ST05貼り床 | － | － | (10.0) | 2/3 | 橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ・ヘラナデ | ロクロナデ・ヘラナデ | | |
| 36 | 34 | 須恵器 | 甕 | 口縁 | ST05貼り床 | 19.2 | － | (5.2) | 1/12 | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 37 | 35 | 須恵器 | 甕 | 口縁 | ST06上坑内 | － | － | (4.4) | － | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 38 | 36 | 須恵器 | 甕 | 体部 | ST06土坑内 | － | － | (4.2) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ・ヘラケズリ | － | | |
| 39 | 82 | 土師器 | 坏 | 口縁～底部 | ST07床直 | (13.0) | (5.9) | 5.1 | 1/2 | にぶい褐 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | ヘラ切り・再調整 | |
| 40 | 81 | 土師器 | 坏 | 口縁～体部 | ST07床直 | (14.0) | | (4.1) | 1/4 | にぶい橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | － | |
| 41 | 95 | 須恵器 | 坏 | 口縁～体部 | ST07床直 | (14.8) | － | (5.0) | 1/6 | 青灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | |
| 42 | 96 | 土師器 | 甕 | 口縁～体部 | ST07床直 | (27.2) | － | (6.4) | 1/12 | 浅黄橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | |
| 43 | 89 | 土師器 | 甕 | 体～底部 | ST07床直 | － | (8.4) | (1.55) | | にぶい黄橙 | 細砂少・粗砂多 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 糸切り・再調整 | |
| 44 | 39 | 須恵器 | 甕 | 頸部 | ST07床直 | － | － | (15.2) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 45 | 37 | 須恵器 | 甕 | 体部 | ST07床直 | － | － | (4.3) | － | 暗灰黄 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | － | |
| 46 | 38 | 須恵器 | 甕 | 頸部 | ST07床直 | － | － | (4.3) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | － | |
| 47 | 97 | 須恵器 | 甕 | 体部 | ST07埋土 | － | － | (5.5) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | | |
| 48 | 40 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SD01埋土 | － | (5.0) | (2.1) | － | 浅黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 切り離し不明・再調整 | |
| 49 | 45 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SD01埋土 | － | (5.6) | (1.3) | 1/3 | 灰白 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | － | |
| 50 | 41 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SD01埋土 | － | 6.0 | (1.2) | － | 黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 51 | 42 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SD01埋土 | － | 4.8 | (1.2) | 1/3 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 52 | 63 | 須恵器 | 甕 | 底部 | SD01埋土 | | － | (1.2) | － | 褐灰 | 細砂多・粗砂少 | ヘラナデ | ロクロナデ | | |
| 53 | 62 | 須恵器 | 壺 | 体～底部 | SD01埋土 | － | (8.4) | (4.4) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | － | |
| 54 | 43 | 須恵器 | 壺 | 口縁 | SD01埋土 | － | － | (5.1) | － | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | － | |
| 55 | 44 | 須恵器 | 甕 | 口縁 | SD01埋土 | － | | (4.1) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 56 | 48 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (1.0) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 57 | 46 | 須恵器 | 甕 | 頸部 | SD01埋土 | － | － | (4.3) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 58 | 47 | 須恵器 | 甕 | 頸部 | SD01埋土 | － | | (3.2) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 59 | 49 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (5.2) | － | 灰 | 細砂少・粗砂多 | タタキ | － | － | |
| 60 | 68 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (6.0) | － | 灰 | 細砂少・粗砂多 | タタキ | アテグ | － | |
| 61 | 101 | 須恵器 | 壺 | 頸部 | SD01埋土 | － | － | (4.6) | － | 暗褐 | 細砂少・粗砂少 | ナデ | ナデ | | |
| 62 | 50 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (6.2) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | | |
| 63 | 51 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | | － | (8.2) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 64 | 56 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (6.3) | | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | | |
| 65 | 54 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (4.8) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ・ヘラケズリ | アテグ | | |
| 66 | 53 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (3.0) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 67 | 59 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (6.6) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 68 | 61 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | (7.9) | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |

**第6表　遺物観察表(2)**

| 遺構No | 遺物No | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存 | 色調 | 胎土 | 内面 | 外面 | 底面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 55 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈6.0〉 | | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 70 | 52 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈7.5〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 71 | 66 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | | － | 〈4.2〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 72 | 58 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈5.3〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 73 | 69 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈7.2〉 | － | オリーブ黒 | 精砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 74 | 57 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈6.2〉 | － | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | ナデ | － | |
| 75 | 60 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈17.9〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | アテグ | － | |
| 76 | 65 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈4.5〉 | － | 暗青灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 77 | 102 | 白磁 | 壺 | 体部 | SD01埋土 | － | － | 〈1.7〉 | － | 白 | － | － | － | － | |
| 78 | 79 | 土師器 | 皿 | 口縁～体部 | SD02埋土 | (14.0) | － | 〈11.2〉 | 1/4 | にぶい橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | |
| 79 | 83 | 土師器 | 甕 | 体～底部 | SD02埋土 | － | (6.0) | 〈3.6〉 | 1/2 | 明黄褐 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 80 | 67 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SD02埋土 | － | － | 〈4.3〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | － | |
| 81 | 64 | 須恵器 | 甕 | 体～底部 | SD02埋土 | － | － | 〈3.2〉 | － | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | ナデ | － | |
| 82 | 94 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SD06埋土 | － | (5.6) | 〈1.0〉 | 1/3 | 淡黄橙 | 細砂少・粗砂多 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | ヘラ切り・再調整 | |
| 83 | 70 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SD06埋土 | － | (6.0) | 〈1.1〉 | 1/3 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 84 | 71 | 須恵器 | 皿 | 体部 | SD06埋土 | － | － | 〈4.1〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | タタキ | － | － | |
| 85 | 72 | 須恵器 | 壺 | 体部 | SD06埋土 | － | － | 〈3.7〉 | － | にぶい黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ヘラナデ | ヘラナデ | － | 外面に墨書文字あり |
| 86 | 73 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SK02埋土 | － | (6.4) | 0.9 | － | 黄橙 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 87 | 90 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SK15埋土 | － | (6.4) | 〈2.65〉 | 1/4 | 橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 切り離し不明・再調整 | |
| 88 | 84 | 須恵器 | 坏 | 体～底部 | SK25床直 | － | (6.2) | 〈2.3〉 | 1/4 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 89 | 86 | 十師器 | 坏 | 口縁～底部 | SK26床直 | (13.0) | (5.0) | 4.9 | 1/4 | にぶい橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 切り離し不明・再調整 | |
| 90 | 93 | 十師器 | 坏 | 口縁～体部 | SK26床直 | (14.4) | － | 〈4.0〉 | 1/6 | 淡黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | － | |
| 91 | 80 | 土師器 | 坏 | 口縁～体部 | SK26床直 | (15.6) | － | 〈4.9〉 | 1/6 | 淡黄橙 | 細砂少・粗砂多 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | |
| 92 | 87 | 土師器 | 坏 | 体～底部 | SK26床直 | － | (5.6) | 〈2.6〉 | 1/2 | 淡黄橙 | 細砂少・粗砂多 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り・再調整 | |
| 93 | 91 | 十師器 | 坏 | 口縁～体部 | SK26床直 | (13.4) | － | 〈3.8〉 | 1/6 | 淡黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | － | |
| 94 | 75 | 須恵器 | 坏 | 口縁～体部 | SK26床直 | (14.2) | － | 〈4.0〉 | 1/8 | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | |
| 95 | 76 | 須恵器 | 甕 | 体部 | SK26東直 | － | － | 〈14.2〉 | － | オリーブ黒 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ・ヘラケズり | ナデ | － | |
| 96 | 77 | 十師器 | 坏 | 体～底部 | P39埋土 | － | 7.6 | 〈3.9〉 | 1/6 | にぶい橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 切り離し不明・再調整 | |
| 97 | 88 | 十師器 | 坏 | 体～底部 | カクラン | － | 6.0 | 〈2.1〉 | 1/2 | 淡黄橙 | 細砂多・粗砂少 | 内黒・ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | |
| 98 | 99 | 須恵器 | 壺 | 口縁 | 表採 | － | － | 〈3.8〉 | － | 暗灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 99 | 78 | 須恵器 | 壺 | 口縁 | 表採 | － | － | 〈3.8〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 100 | 98 | 須恵器 | 甕 | 頸部 | 表採 | － | － | 〈2.9〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |
| 101 | 100 | 須恵器 | 甕 | 肩～体部 | 表採 | － | － | 〈10.8〉 | － | 灰 | 細砂多・粗砂少 | ロクロ | ロクロ | | |

第７表　遺物観察表（３）

# 写　真　図　版

調査区遠景

完掘状況

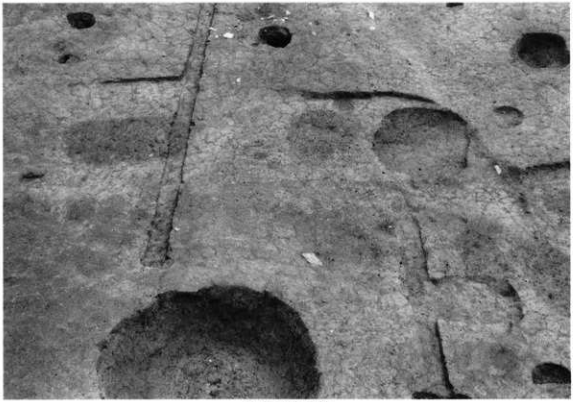
写真図版１　調査区遠景・完掘状況

1号竪穴住居完掘

1号竪穴住居遺物出土状況

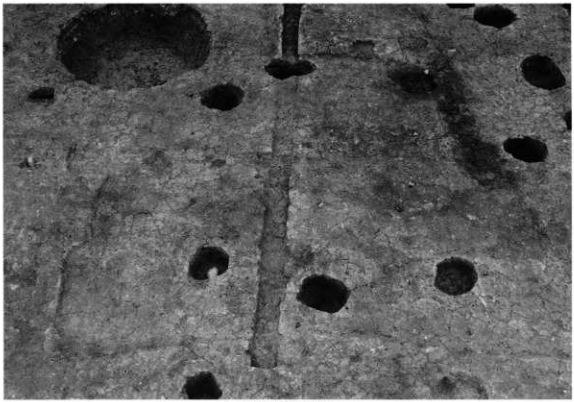
写真図版2　1号竪穴住居完掘・遺物出土状況

2号竪穴住居完掘



3号竪穴住居完掘

写真図版3　2・3号竪穴住居完掘状況



4号竪穴住居完掘

5号竪穴住居完掘

写真図版4　4・5号竪穴住居完掘状況

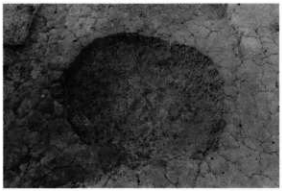
6号竪穴住居完掘

7号竪穴住居完掘

写真図版5　6・7号竪穴住居完掘状況

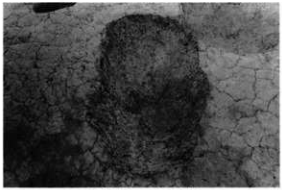
1号竪穴住居断面

3号竪穴住居遺物出土状況



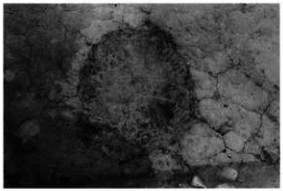
3号竪穴住居1号土坑完掘

3号竪穴住居1号土坑断面



5号竪穴住居2号土坑完掘

5号竪穴住居2号土坑断面



5号竪穴住居1号土坑完掘

5号竪穴住居1号土坑断面

写真図版6　1号竪穴住居断面・住居内土坑

5号竪穴住居3号土坑完掘

5号竪穴住居3号土坑断面

7号竪穴住居断面

柱穴群完掘状況

写真図版7　住居内土坑・7号竪穴住居断面・柱穴群完掘

1・2・6溝完掘状況

1号溝完掘状況

1号溝断面

1号溝溜井断面

写真図版8　1・2・4・6号溝完掘、1号溝完掘・断面

2号溝完掘状況

2号溝完掘状況

2号溝断面

2号溝断面

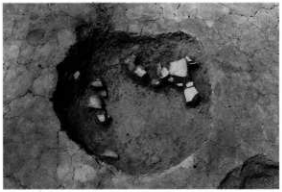
4号溝完掘

4号溝断面

6号溝完掘

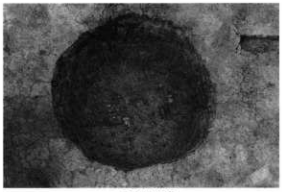
6号溝断面

写真図版9　2・4・6溝完掘・断面



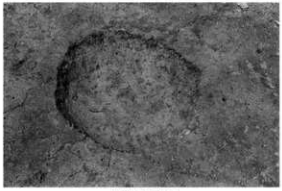
1号土坑完掘

1号土坑断面



2号土坑完掘

2号土坑断面



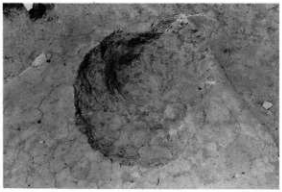
3号土坑完掘

3号土坑断面

4号土坑完掘

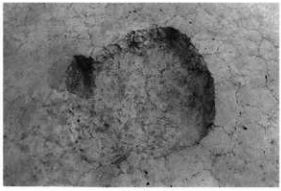
4号土坑断面

写真図版10　1～4号土坑



5号土坑完掘

5号土坑断面

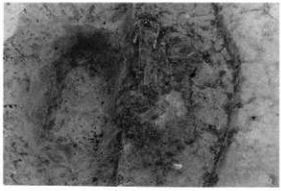


7号土坑完掘

7号土坑断面

8号土坑完掘

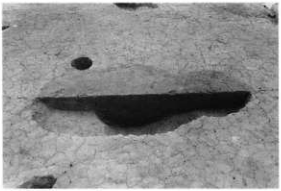
8号土坑断面



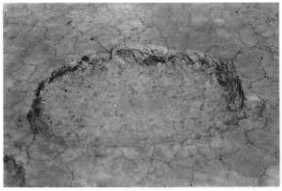
8号土坑炭化材検出状況

写真図版11　5・7・8号土坑

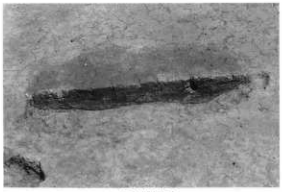
10号土坑完掘



10号土坑断面



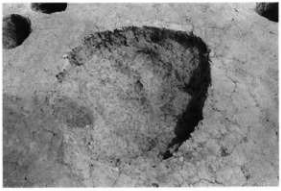
13号土坑完掘



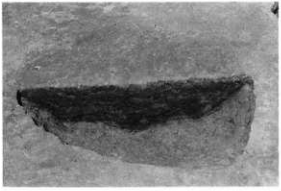
13号土坑断面

14号土坑完掘

14号土坑断面

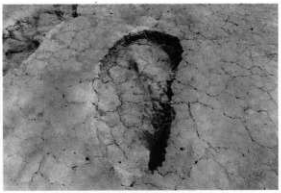


15号土坑完掘

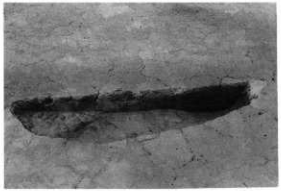


15号土坑断面

写真図版12　10・13～15号土坑



16号土坑完掘



16号土坑断面

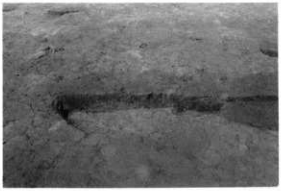
17号土坑完掘

17号土坑断面

21号土坑完掘

21号土坑断面

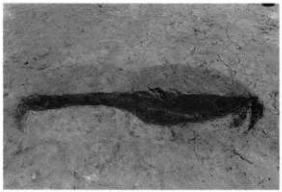
22号土坑完掘



22号土坑断面

写真図版13　16・17・21・22号土坑

23号土坑完掘



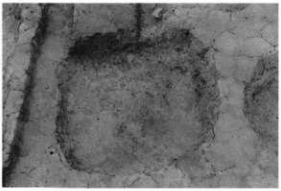
23号土坑断面

24号土坑完掘

24号土坑断面

25号土坑完掘

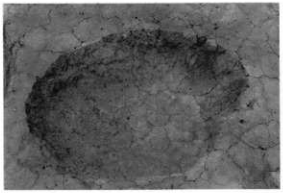
25号土坑断面



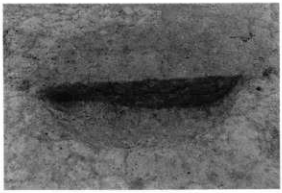
26号土坑完掘

26号土坑断面

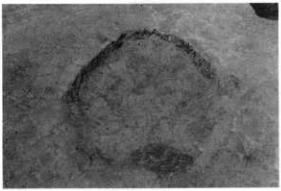
写真図版14　23～26号土坑



27号土坑完掘



27号土坑断面



28号土坑完掘

28号土坑断面

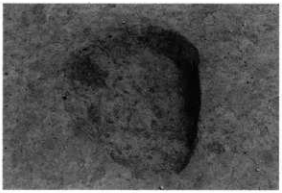
33号土坑断面

33号土坑断面

34号土坑断面

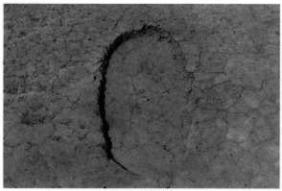
34号土坑断面

写真図版15　27・28・33・34号土坑



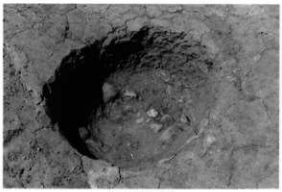
35号土坑完掘

35号土坑断面

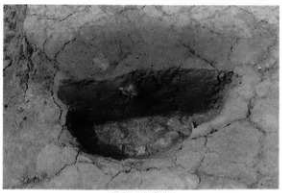


39号土坑完掘

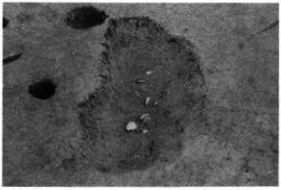
39号土坑断面



40号土坑完掘



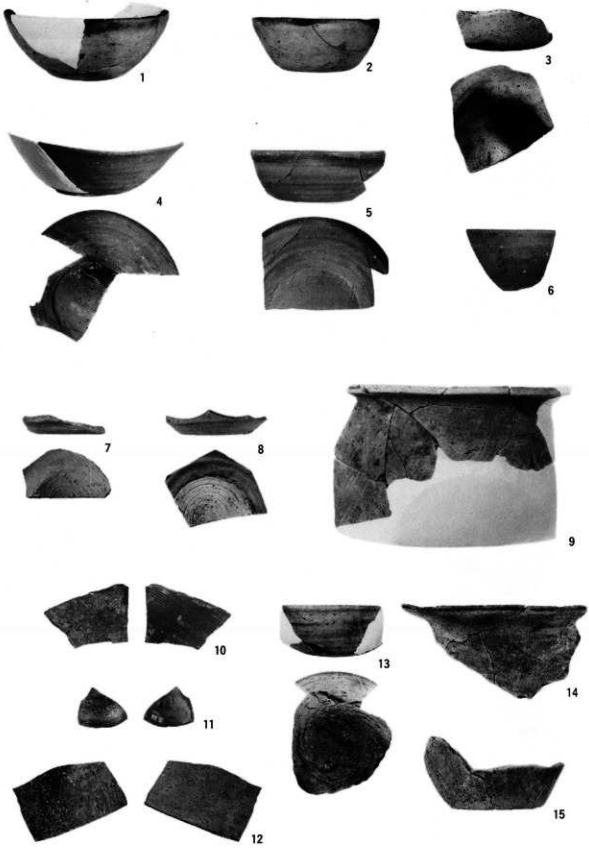
40号土坑断面



41号土坑完掘

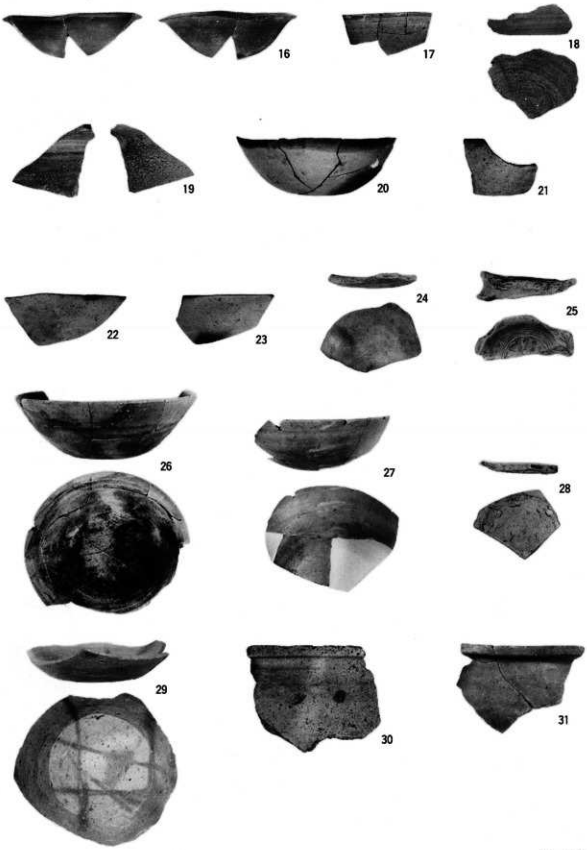
41号土坑断面

写真図版16　25・39～41号土坑



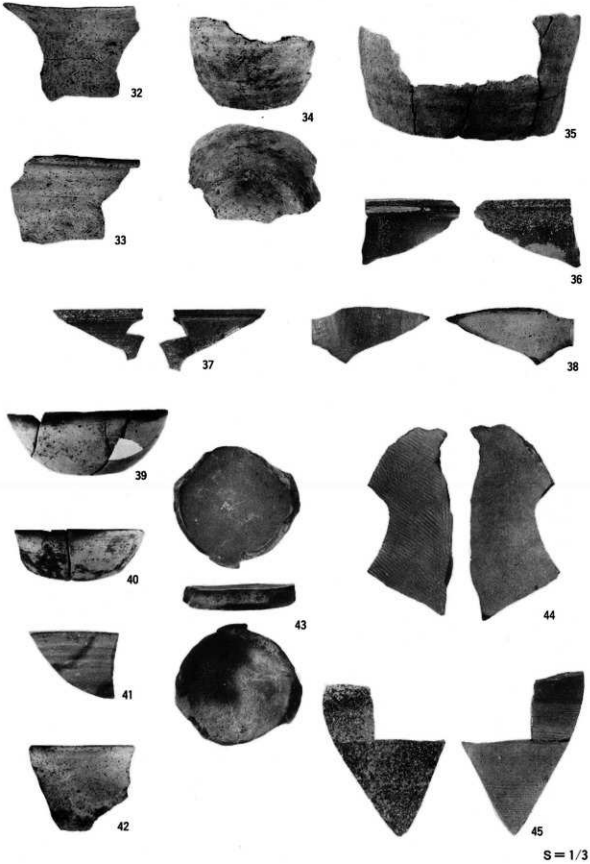

S＝1/3

写真図版17　出土遺物(1)

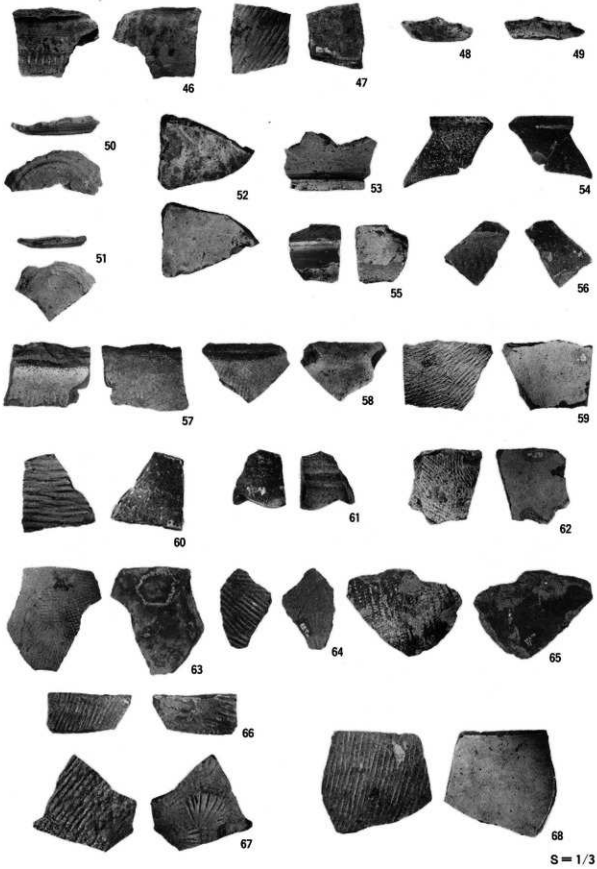



S＝1/3

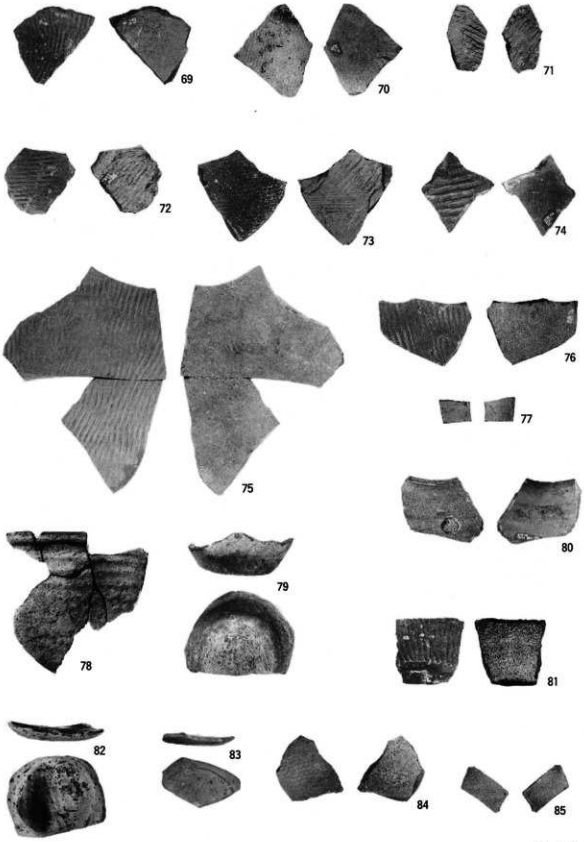
写真図版18　出土遺物(2)




写真図版19　出土遺物(3)

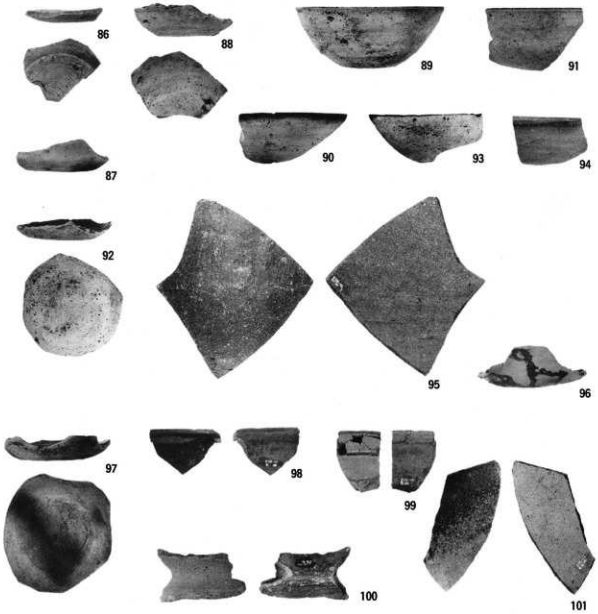



写真図版20　出土遺物（４）




S＝1/3

写真図版21　出土遺物(5)




S＝1/3

写真図版22　出土遺物(6)

# 平成15年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

| | |
|---|---|
| 所長 | 木村 昇 |

〔管理課〕

| | |
|---|---|
| 課長 | 菲沢 正吾 |
| 課長補佐 | 山岸 直美 |
| 主査 | 中鳴 賢一 |
| 主事 | 猿橋 幸子 |

〔調査第一課〕

| | |
|---|---|
| 課長 | 佐々木 勝 |
| 課長補佐 | 佐々木 清文 |
| 文化財専門員 | 金子 昭彦 |
| 文化財調査員 | 吉田 充 |
| 〃 | 亀 大二郎 |
| 〃 | 野中 真盛 |
| 〃 | 新妻 伸也 |
| 〃 | 阿部 勝則 |
| 〃 | 杉沢 昭太郎 |
| 〃 | 西澤 正晴 |
| 〃 | 村木 敬 |

〔調査第二課〕

| | |
|---|---|
| 課長 | 三浦 謙一 |
| 課長補佐 | 中川 重紀 |
| 〃 | 高橋 義介 |
| 文化財専門員 | 小山内 透 |
| 〃 | 金子 佐知子 |
| 〃 | 濱田 宏 |
| 文化財調査員 | 赤石 登 |
| 〃 | 阿部 眞澄 |
| 〃 | 水上 明博 |
| 〃 | 阿部 憲 |
| 〃 | 早坂 淳 |
| 〃 | 小松 則也 |
| 〃 | 阿部 徳幸 |
| 〃 | 窓岩 伸吾 |
| 〃 | 亀澤 盛行 |
| 〃 | 飯坂 一重 |
| 〃 | 鈴木 裕明 |
| 〃 | 林 勲 |
| 〃 | 阿部 孝明 |
| 〃 | 羽柴 直人 |

| | |
|---|---|
| 副所長 | 平野 允亩 |
| 嘱託 | 高橋 照雄 |
| 〃 | 湯沢 邦子 |
| 〃 | 沼田 テル子 |
| 〃 | 伊藤 滋子 |
| 文化財調査員 | 北村 忠昭 |
| 〃 | 八木 勝枝 |
| 〃 | 丸山 浩治 |
| 〃 | 北田 勲 |
| 〃 | 島原 弘征 |
| 期限付調査員 | 坂部 恵造 |
| 〃 | 小林 弘卓 |
| 〃 | 藤原 大輔 |
| 〃 | 小針 大志 |
| 〃 | 太田代 一彦 |
| 〃 | 新井田 えり子 |
| 文化財調査員 | 星 雅之 |
| 〃 | 佐藤 淳一 |
| 〃 | 星 幸文 |
| 〃 | 溜 浩二郎 |
| 〃 | 本多 準一郎 |
| 〃 | 丸山 直美 |
| 〃 | 福島 正和 |
| 〃 | 米田 寛 |
| 〃 | 須原 拓 |
| 〃 | 中村 絵美 |
| 〃 | 川又 晋 |
| 〃 | 村田 淳 |
| 〃 | (村上 拓) |
| 期限付調査員 | 斎藤 麻紀子 |
| 〃 | 石崎 高臣 |
| 〃 | 吉田 星和 |
| 〃 | 立花 裕 |
| 〃 | 江藤 敦 |
| 〃 | 駒木野 智寛 |

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | しまだにいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書　　名 | 島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書 |
| 副 書 名 | ほ場整備姉体地区関連発掘調査 |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第444集 |
| 編 著 者 名 | 村木　敬 |
| 編 集 機 関 | 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 所　在　地 | 〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11-185　TEL 019-638-9001 |
| 発 行 年 月 日 | 西暦2004年2月27日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| しまだにいせき<br>島田Ⅱ遺跡 | いわてけんなんぶしし<br>岩手県水沢市<br>しんじょうあざしまだ<br>真城字島田54 | 03204 | ME37-<br>0079 | 39°<br>27′<br>47″ | 141°<br>08′<br>59″ | 2002.7.8<br>～8.28 | 596㎡ | ほ場整備姉体地区に伴う緊急発掘調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 島田Ⅱ遺跡 | 集落跡 | 平安時代 | 住居跡　7棟<br>掘立柱建物　7棟<br>溝　4条<br>土坑　23基<br>柱穴　79基 | 土師器・須恵器<br>中国産陶磁器 | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第444集

# 島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ほ場整備事業姉体地区関連遺跡発掘調査

印刷　平成16年2月25日
発行　平成16年2月27日

発行　(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185
電 話 (019) 638-9001
FAX (019) 638-8563
印刷　(株) 長内印刷
〒020-0122　岩手県盛岡市みたけ三丁目3-28
電 話 (019) 643-5343

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004